

### Ⅲ 調査結果の分析

#### 1. 住みごころについて

##### (1) 住みごころの実感（問1）

【「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」割合】

区分		「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」 の割合（前回調査比）
全 体		68.7 % （－ 4.4ポイント）
年 代	10代	58.3 % （－ 6.9ポイント）
	20代	70.9 % （－ 8.4ポイント）
	30代	70.3 % （－ 2.9ポイント）
	40代	64.7 % （－ 7.3ポイント）
	50代	70.6 % （＋ 5.4ポイント）
	60代	71.3 % （－ 2.0ポイント）
	70代以上	68.7 % （－ 10.0ポイント）

秋田市の住みごころについては、「住みやすい」20.3%（22.7%）、「どちらかといえば住みやすい」48.4%（50.4%）を合わせた割合が68.7%（73.1%）と、前回調査結果（73.1%）から4.4ポイント減少したが、全体のおよそ7割の市民が住みやすいと感じている。

年代別でみると、10代は58.3%（65.2%）と最も低く、その他の年代では6割から7割程度である。前回調査結果との差でみると、70代以上は10.0ポイント減少した。

## (2) 秋田市の分野別の評価（問2）

【「よい」「どちらかといえばよい」の割合の合計が高い分野 上位 10 項目】

順位 (今回)	順位 (前回)	項目	「よい」「どちらかといえばよい」 の割合(前回調査比)
1	1	食の安全・安心	49.6 % (－ 2.6ポイント)
2	2	公園や緑地、街路樹など緑の豊かさ	44.8 % (－ 0.3ポイント)
3	3	ごみの収集・処理やリサイクルへの取り組み	44.1 % (+ 1.4ポイント)
4	5	健康診断や予防接種などの受けやすさ	32.1 % (－ 0.6ポイント)
5	6	市役所の窓口サービス	28.2 % (－ 0.7ポイント)
6	7	病院などの医療機関の利用しやすさ	26.5 % (+ 0.3ポイント)
7	10	まちなみなどの景観	25.3 % (+ 2.6ポイント)
8	4	広報あきた・市政テレビ・SNSなど市政情報の得やすさ	25.1 % (－ 8.5ポイント)
9	9	買い物のしやすさ	23.4 % (+ 0.2ポイント)
10	12	環境保全への取り組み	20.7 % (－ 1.3ポイント)

分野別評価（全 31 項目）で「よい」「どちらかといえばよい」の割合の合計がもっとも高い分野は「食の安全・安心」であった。上位 10 分野をみると、前回調査から 5 ポイント以上の差が見られたのは「広報あきた・市政テレビ・SNS など市政情報の得やすさ」（前回調査での選択肢は「広報あきたなど市政情報の得やすさ）」のみであり、8.5 ポイントの減少となった。一方、「まちなみなどの景観」が 2.6 ポイント増加したほか、「ごみの収集・処理やリサイクルへの取り組み」、「病院などの医療機関の利用しやすさ」、「買い物のしやすさ」は前回調査よりも増加した。

【「どちらかといえば悪い」「悪い」の割合の合計が高い分野 上位 10 項目】

順位 (今回)	順位 (前回)	項目	「どちらかといえば悪い」「悪い」 の割合(前回調査比)
1	1	産業や雇用の状況	72.2 % (+ 2.2ポイント)
2	2	冬期の除雪	66.9 % (+ 4.6ポイント)
3	4	バス、電車などの利用しやすさ	62.2 % (+ 3.8ポイント)
4	3	まちのにぎわい	59.8 % (- 0.7ポイント)
5	14	大雨、地震など自然災害への安全性	54.7 % (+ 29.4ポイント)
6	5	観光地としての魅力	51.8 % (- 1.4ポイント)
7	6	経済・学術交流などの国際化の進みぐ あい	48.1 % (+ 7.5ポイント)
8	7	レジャー・娯楽などレクリエーションのし やすさ	40.4 % (+ 1.3ポイント)
9	9	道路の整備状況	36.5 % (+ 6.0ポイント)
10	8	高齢者・障がい者の生活のしやすさ	33.1 % (- 2.1ポイント)

分野別評価（全 31 項目）で「どちらかといえば悪い」「悪い」の割合の合計がもっとも高い分野は「産業や雇用の状況」であった。上位 10 項目をみると、前回調査から 5 ポイント以上増加したのは「大雨、地震など自然災害への安全性」、「経済・学術交流などの国際化の進みぐあい」、「道路の整備状況」であり、特に「大雨、地震など自然災害への安全性」は 29.4 ポイントと大幅に増加した。一方で、「まちのにぎわい」、「観光地としての魅力」ならびに「高齢者・障がい者の生活のしやすさ」の 3 項目は減少し、改善傾向が見られる。

さらに、問2の分野を次のようなカテゴリーに分類し、評価を整理した。

- A … 道路・公園・緑地などのまちづくり（項目1、2、3、4）
- B … 産業（項目5、6、7）
- C … 自然災害、治安、食の安全・安心（項目8、9、13）
- D … 買い物・交通（項目10、11、12）
- E … 福祉・医療（項目14、15、16、17）
- F … 環境保全（項目18、19）
- G … 社会参加（項目20、21、22、23、24、25、26、27）
- H … 行政の市民サービス（項目28、29、30、31）

【カテゴリー別の評価の整理】

	カテゴリー	評価
A	道路・公園・緑地などのまちづくり	緑の豊かさ、まちなみなどの景観は相対的に良い評価を得られたものの、まちのにぎわいの改善は依然として課題である。
B	産業	いずれの項目においても相対的に悪い評価が多く、特に産業や雇用状況の改善が課題である。
C	自然災害、治安、食の安全・安心	自然災害への安全性が改善の重要性が高い項目である。食の安全・安心は全項目で最も良い評価となった。
D	買い物・交通	交通の便および除雪は相対的に悪い評価が多かったものの、買い物のしやすさは一定の良い評価を得られた。
E	福祉・医療	医療へのアクセスのしやすさについて、相対的に良い評価を得られた。
F	環境保全	リサイクル、環境保全ともに相対的に良い評価を得られた。
G	社会参加	レクリエーションのしやすさは悪い評価が相対的に多いものの、それ以外の項目は、良い評価でも悪い評価でも上位10項目に入らなかった。
H	行政の市民サービス	市役所の窓口サービス、広報などの市政情報で相対的に良い評価を得られた。

## 2. 秋田市の施策について

### (1) 力を入れて欲しい施策（問3①）

【「力を入れて欲しい施策」上位項目】

前回調査			今回調査			
順位	項目	割合 (%)	順位	項目	割合 (%)	前回との差
1	冬期の除雪	61.4	1	冬期の除雪	64.4	3.0
2	雇用対策	43.9	2	雇用対策	40.1	-3.8
3	バス路線の維持	32.3	3	バス路線の維持	32.9	0.6
4	高齢者福祉	32.1	4	子育て支援	25.4	-2.5
5	子育て支援	27.9	5	商工業の振興や地元経済の活性化	25.3	-2.0
6	商工業の振興や地元経済の活性化	27.3	6	道路交通網の整備	25.0	0.5
7	中心市街地のにぎわい創出	26.9	7	防災対策	24.7	※
8	道路交通網の整備	24.5	8	中心市街地のにぎわい創出	24.3	-2.6
9	観光振興	17.7	9	高齢者福祉	24.2	-7.9
10	防犯・防災対策	14.4	10	移住の促進や関係人口の創出・拡大	18.5	※
			11	観光振興	16.7	-1.0

※今回新規項目のため前回との比較なし

全体で見ると、「冬期の除雪」の割合が 64.4%（61.4%）で突出して高く、これに「雇用対策」が 40.1%（43.9%）で続き、次いで「バス路線の維持」、「子育て支援」、「商工業の振興や地元経済の活性化」が続いている。上位 10 項目の施策を前回調査と比較すると、「雇用対策」、「子育て支援」、「商工業の振興や地元経済の活性化」、「中心市街地のにぎわい創出」、「高齢者福祉」の 5 項目で割合が低下し、特に「高齢者福祉」は 7.9 ポイントと他の項目と比べて相対的に大きく低下した。一方で、それら以外の 4 項目では割合が増加しており、「冬期の除雪」は 3.0 ポイント増加した。

前回順位との比較では、「冬期の除雪」、「雇用対策」ならびに「バス路線の維持」の上位 3 項目は変わらず、4 位から 6 位の項目の順位はすべて上昇した一方、「高齢者福祉」が前回 4 位から 9 位に下降している。

今回の新規項目である「防災対策」（前回調査での選択肢は「防犯・防災対策」）、「移住の促進や関係人口の創出・拡大」がそれぞれ 24.7%、18.5%で上位 10 項目に入った。

【「力を入れて欲しい施策」上位5項目（年代別）】

今回調査

順位	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪
2	大学など高等教育環境の整備	子育て支援	子育て支援	雇用対策	雇用対策	雇用対策	バス路線の維持
3	雇用対策	道路交通網の整備	雇用対策	子育て支援	道路交通網の整備	バス路線の維持	高齢者福祉
4	バス路線の維持	バス路線の維持(※)	道路交通網の整備	道路交通網の整備(※)	バス路線の維持	防災対策	雇用対策
5	中心市街地のにぎわい創出	雇用対策(※)	中心市街地のにぎわい創出(※)	中心市街地のにぎわい創出(※)	中心市街地のにぎわい創出	高齢者福祉	商工業の振興や地元経済の活性化
5	-	-	乳幼児医療・児童福祉(※)	-	-	-	-
5	-	-	小・中学校の教育環境整備(※)	-	-	-	-

※同率順位

前回調査

順位	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	大学など高等教育環境の整備	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪
2	中心市街地のにぎわい創出	雇用対策	子育て支援	雇用対策	雇用対策	雇用対策	高齢者福祉
3	観光振興	中心市街地のにぎわい創出(※)	雇用対策	商工業の振興や地元経済の活性化	道路交通網の整備	高齢者福祉	バス路線の維持
4	冬期の除雪(※)	子育て支援(※)	乳幼児医療・児童福祉	中心市街地のにぎわい創出	バス路線の維持	バス路線の維持	雇用対策
5	雇用対策(※)	観光振興	道路交通網の整備	子育て支援	商工業の振興や地元経済の活性化	商工業の振興や地元経済の活性化	商工業の振興や地元経済の活性化

※同率順位

年代別にみると、全ての年代で「冬期の除雪」が1位となっており、年齢を問わずニーズが高い。10代では「大学など高等教育環境の整備」が上位となっており、他の年代にはない傾向である。また、「バス路線の維持」は、10代から20代および50代以上で上位であることから、バスの利用が多い年代のニーズが表れたと考えられる。

【「力を入れて欲しい施策」上位5項目（居住地域別）】

今回調査

順位	中央地域	東部地域	西部地域	南部地域	北部地域	河辺地域	雄和地域
1	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪(※)
2	雇用対策	雇用対策	雇用対策	雇用対策	雇用対策	子育て支援	道路交通網の整備(※)
3	バス路線の維持	バス路線の維持	バス路線の維持	バス路線の維持	バス路線の維持	雇用対策(※)	雇用対策(※)
4	中心市街地のにぎわい創出	商工業の振興や地元経済の活性化	中心市街地のにぎわい創出(※)	防災対策	高齢者福祉	移住の促進や関係人口の創出・拡大(※)	子育て支援(※)
5	防災対策	防災対策	防災対策(※)	高齢者福祉	子育て支援	防災対策	バス路線の維持(※)
5	-	-	-	-	-	-	商工業の振興や地元経済の活性化(※)
5	-	-	-	-	-	-	移住の促進や関係人口の創出・拡大(※)

※同率順位

前回調査

順位	中央地域	東部地域	西部地域	南部地域	北部地域	河辺地域	雄和地域
1	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪
2	雇用対策	雇用対策	雇用対策(※)	雇用対策	雇用対策	道路交通網の整備	バス路線の維持
3	バス路線の維持	バス路線の維持	高齢者福祉(※)	バス路線の維持	高齢者福祉	雇用対策	高齢者福祉
4	中心市街地のにぎわい創出	高齢者福祉	商工業の振興や地元経済の活性化	高齢者福祉	バス路線の維持	バス路線の維持(※)	道路交通網の整備(※)
5	高齢者福祉	中心市街地のにぎわい創出(※)	バス路線の維持	道路交通網の整備(※)	子育て支援	高齢者福祉(※)	雇用対策(※)
5	-	子育て支援(※)	-	子育て支援(※)	-	-	-

※同率順位

居住地域別にみると、いずれの地域においても「冬期の除雪」が同率を含めて1位であった。河辺地域では「子育て支援」が2位となり、その他のすべての地域では「雇用対策」が同率を含めて2位であった。

前回調査と比較すると、前は上位5項目に入っていなかった「防災対策」（前回調査での選択肢は「防犯・防災対策」）が、5つの地域において今回新たに上位5項目に入った。

【「力を入れて欲しい施策」上位5項目（子どもの有無別）】

順位	1人以上	いない
1	冬期の除雪	冬期の除雪
2	雇用対策	雇用対策
3	バス路線の維持	バス路線の維持
4	子育て支援	道路交通網の整備
5	商工業の振興や地元経済の活性化	中心市街地のにぎわい創出

子どもの有無別では、いずれも「冬期の除雪」、「雇用対策」、「バス路線の維持」が上位3項目となった。4位、5位の項目については、子どもが1人以上では「子育て支援」、「商工業の振興や地元経済の活性化」、子どもがいない人は「道路交通網の整備」、「中心市街地のにぎわい創出」となり、異なる傾向がみられた。

(2) もっとも力を入れて欲しい施策（問3②）

【「もっとも力を入れて欲しい施策」上位5項目】

前回調査			今回調査			
順位	項目	割合 (%)	順位	項目	割合 (%)	前回との差
1	冬期の除雪	17.6	1	冬期の除雪	18.7	1.1
2	雇用対策	15.2	2	雇用対策	9.9	-5.3
3	商工業の振興や地元経済の活性化	8.6	3	子育て支援	8.8	2.5
4	バス路線の維持	7.4	4	バス路線の維持	8.5	1.1
5	高齢者福祉	7.0	5	商工業の振興や地元経済の活性化	6.4	-2.2
~~~~~						
7	子育て支援	6.3	8	高齢者福祉	5.2	-1.8

力を入れて欲しい施策として選んだ施策の中から、もっとも力を入れて欲しい施策を1つ選んでもらった結果、「冬期の除雪」の割合が18.7%（17.6%）でもっとも高く、次いで「雇用対策」が9.9%（15.2%）で続いた。上位2項目については「力を入れて欲しい施策」の上位2項目と一致しており、ここでもニーズの高さがうかがえた。また、前回調査では上位5項目ではなかった「子育て支援」が今回は8.8%（6.3%）で3位となった。

【「もっとも力を入れて欲しい施策」上位5項目（年代別）】

今回調査

順位	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	大学など高等教育環境の整備(※)	子育て支援	子育て支援	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪
2	道路交通網の整備(※)	冬期の除雪	冬期の除雪	子育て支援	雇用対策	雇用対策	バス路線の維持
3	雇用対策(※)	道路交通網の整備(※)	雇用対策	雇用対策	中心市街地のにぎわい創出	防災対策	高齢者福祉
4	子育て支援(※)	バス路線の維持(※)	バス路線の維持(※)	商工業の振興や地元経済の活性化	商工業の振興や地元経済の活性化(※)	商工業の振興や地元経済の活性化(※)	雇用対策
5	中心市街地のにぎわい創出(※)	雇用対策(※)	中心市街地のにぎわい創出(※)	中心市街地のにぎわい創出	移住の促進や関係人口の創出・拡大(※)	高齢者福祉(※)	防災対策
5	冬期の除雪(※)	-	-	-	-	-	-

※同率順位

前回調査

順位	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	大学など高等教育環境の整備	雇用対策	子育て支援	冬期の除雪	雇用対策	冬期の除雪	冬期の除雪
2	商工業の振興や地元経済の活性化	冬期の除雪	雇用対策	雇用対策	冬期の除雪	雇用対策	バス路線の維持(※)
3	中心市街地のにぎわい創出	中心市街地のにぎわい創出(※)	冬期の除雪	商工業の振興や地元経済の活性化	商工業の振興や地元経済の活性化	バス路線の維持	高齢者福祉(※)
4	道路交通網の整備(※)	子育て支援(※)	道路交通網の整備(※)	中心市街地のにぎわい創出	道路交通網の整備	高齢者福祉	雇用対策
5	雇用対策(※)	商工業の振興や地元経済の活性化	商工業の振興や地元経済の活性化(※)	高齢者福祉(※)	中心市街地のにぎわい創出	商工業の振興や地元経済の活性化	中心市街地のにぎわい創出(※)
5	小・中学校の教育環境整備(※)	-	-	子育て支援(※)	-	-	商工業の振興や地元経済の活性化(※)

※同率順位

年代別に上位5項目をみると、20代以上の各年代では「冬期の除雪」が上位2位以内に入っており、年代を問わずニーズが高いことが分かる。一方で、20代、30代、40代では「子育て支援」が、10代では「大学など高等教育環境の整備」が、60代、70代以上では「高齢者福祉」が上位項目となっており、年代によるニーズの違いがみられた。

前回調査と比較すると、10代で「道路交通網の整備」が2位に入っているほか、20代および30代において「バス路線の維持」が上位となり、ニーズの高まりがみられた。

【「もっとも力を入れて欲しい施策」（子どもの有無別）】

順位	1人以上	いない
1	冬期の除雪	冬期の除雪
2	雇用対策	雇用対策
3	子育て支援	バス路線の維持
4	バス路線の維持	その他
5	商工業の振興や地元経済の活性化	子育て支援

子どもの有無別では、いずれも「冬期の除雪」、「雇用対策」が上位2項目となった。3～5位の項目については、子どもが1人以上では「子育て支援」、「バス路線の維持」、「商工業の振興や地元経済の活性化」、子どもがいない人は「バス路線の維持」、「その他」、「子育て支援」となり、異なる傾向がみられた。

【「もっとも力を入れて欲しい施策」上位5項目（居住地域別）】

今回調査

順位	中央地域	東部地域	西部地域	南部地域	北部地域	河辺地域	雄和地域
1	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	道路交通網の整備
2	子育て支援	子育て支援	雇用対策	雇用対策	バス路線の維持(※)	雇用対策(※)	冬期の除雪
3	中心市街地のにぎわい創出	バス路線の維持	バス路線の維持	バス路線の維持	雇用対策(※)	高齢者福祉(※)	バス路線の維持(※)
4	雇用対策	防災対策	子育て支援	道路交通網の整備(※)	子育て支援	子育て支援(※)	雇用対策(※)
5	防災対策	雇用対策	中心市街地のにぎわい創出	高齢者福祉(※)	商工業の振興や地元経済の活性化	商工業の振興や地元経済の活性化	子育て支援(※)

※同率順位

前回調査

順位	中央地域	東部地域	西部地域	南部地域	北部地域	河辺地域	雄和地域
1	冬期の除雪	冬期の除雪	冬期の除雪	雇用対策	冬期の除雪	バス路線の維持	冬期の除雪
2	雇用対策	雇用対策	雇用対策	冬期の除雪	雇用対策	雇用対策	バス路線の維持
3	商工業の振興や地元経済の活性化	商工業の振興や地元経済の活性化	高齢者福祉	商工業の振興や地元経済の活性化(※)	バス路線の維持	道路交通網の整備	高齢者福祉(※)
4	中心市街地のにぎわい創出	中心市街地のにぎわい創出	中心市街地のにぎわい創出	子育て支援(※)	商工業の振興や地元経済の活性化	商工業の振興や地元経済の活性化(※)	健康づくり・医療・保健衛生(※)
5	高齢者福祉	道路交通網の整備	道路交通網の整備(※)	高齢者福祉	子育て支援	観光振興(※)	道路交通網の整備(※)
5	-	-	商工業の振興や地元経済の活性化(※)	-	-	高齢者福祉(※)	美しい景観づくり(※)
5	-	-	子育て支援(※)	-	-	-	子育て支援(※)
5	-	-	-	-	-	-	小・中学校の教育環境整備(※)

※同率順位

居住地域別に上位5項目をみると、全ての地域で「冬期の除雪」および「雇用対策」が上位に入っている。また、南部地域を除く6地域で「子育て支援」が、東部地域、西部地域、南部地域、北部地域、雄和地域では「バス路線の維持」が上位5項目に入っている。

前回調査と比較すると、「冬期の除雪」は変わらずニーズが高い一方で、「雇用対策」よりも「子育て支援」や「バス路線の維持」が高くなった地域があり、ニーズの高まりがうかがえる。

### 3. 創生戦略事業について

秋田市では、令和3年度から令和7年度までの総合計画「県都『あきた』創生プラン」の中で、特に力を入れていく5つの分野を「創生戦略」と位置づけている。各戦略の名称は以下のとおりである。

戦略1 先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり

戦略2 芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上

戦略3 未来につなぐ環境立市あきたの推進

戦略4 子どもを生き育てやすい社会づくり

戦略5 いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり

#### 今回調査

	重要度 a	満足度 b	ニーズ度 a-b
戦略1 先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり	19.0	-21.4	40.4
戦略2 芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上	7.5	-9.3	16.8
戦略3 未来につなぐ環境立市あきたの推進	5.0	-15.5	20.5
戦略4 子どもを生き育てやすい社会づくり	29.2	-21.2	50.4
戦略5 いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり	12.5	-12.9	25.4
平均値	14.6	-16.1	30.7

#### 前回調査

	重要度 a	満足度 b	ニーズ度 a-b
戦略1 地域産業の振興と雇用の創出	29.0	-38.4	67.4
戦略2 芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上	7.5	-11.2	18.7
戦略3 豊かな自然をいかした環境立市の確立	-2.1	-3.9	1.8
戦略4 子どもを生き育てやすい社会づくり	28.4	-18.6	47.0
戦略5 いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり	10.7	-11.1	21.8
平均値	14.7	-16.6	31.3

#### ○ニーズ度の計算方法

「高い（満足）」は回答数×2点、「どちらかといえば高い（満足）」は回答数×1点、「高くない（不満）」は回答数×-2点、「どちらかといえば高くない（不満）」は回答数×-1点、「わからない」の回答は0点とし、5段階の回答を数値化する。

得られた数値をすべて合計し、「有効回答数（回答者数から無回答者数を引いた数）×2」で得られる数で除した数値を100点換算し、重要度・満足度を点数化する。

重要度の点数から満足度を引いたものをニーズ度とする。

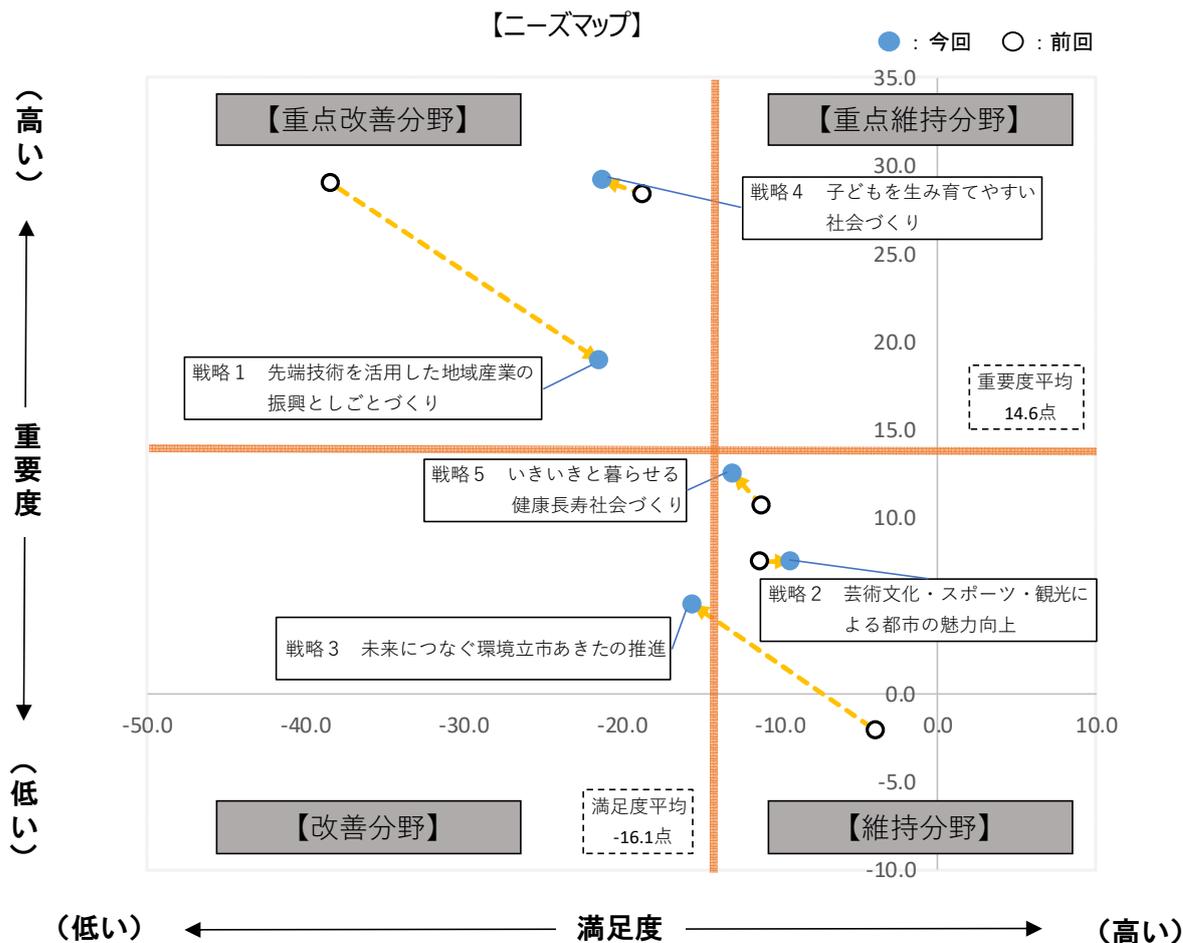
#### (1) 重要度の高い創生戦略（問4①）

重要度がもっとも高いのは「子どもを生き育てやすい社会づくり」で、次いで「先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり」が続き、以下は「いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり」、「芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上」、「未来につなぐ環境立市あきたの推進」の順となった。

#### (2) 満足度の高い創生戦略（問4②）

満足度は全ての戦略でマイナスであったが、もっとも高いのは「芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上」で、次いで「いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり」が続き、以下は「未来につなぐ環境立市あきたの推進」、「子どもを生き育てやすい社会づくり」、「先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり」の順となった。前回調査と比較すると、「先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり」の満足度が17.0ポイント増加しており、改善傾向が見られた。

### (3) ニーズ度とニーズマップについて



#### ○ニーズマップ

縦軸を重要度、横軸を満足度とする散布図をつくり、重要度と満足度の点数を座標として各項目を散布図上に置く。満足度・重要度の平均値に線を引くと4つの事象ができ、ニーズの特性や度合を読み取ることができる。

各戦略のニーズ度を算出した結果、「子どもを生き育てやすい社会づくり」のニーズ度が 50.4 ポイントと最も高い。次いで「先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり」が 40.4 ポイントで続いた。ニーズ度が最も低いのは「芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上」で、16.8 ポイントであった。

ニーズマップを作成したところ、「子どもを生き育てやすい社会づくり」および「先端技術を活用した地域産業の振興としごとづくり」は『重点改善分野』に位置していることから、今後の一層の改善が求められる分野である。

「いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり」および「芸術文化・スポーツ・観光による都市の魅力向上」は『維持分野』に位置しており、今後も継続した取り組みが必要である。

「未来につなぐ環境立市あきたの推進」は『改善分野』に位置しており、前回調査時よりもニーズ度が大きく増加していることから、重点化の必要性は相対的に低いものの、今後改善に取り組むべき課題である。

## 4. 人口減少社会について

### (1) 秋田市の少子化の要因（問5①）

【少子化の要因として影響が大きいと思うもの（割合が高い順）】

前回調査			今回調査			
順位	項目	割合 (%)	順位	項目	割合 (%)	前回の差
1	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	66.4	1	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	67.5	1.1
2	晩婚化の進行や婚姻数の減少	54.5	2	晩婚化の進行や婚姻数の減少	51.6	-2.9
3	子育て費用や教育費などの経済的負担	53.5	3	子育て費用や教育費などの経済的負担	50.9	-2.6
4	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	28.1	4	男女の出会いの機会の減少	28.8	3.3
5	男女の出会いの機会の減少	25.5	5	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	24.7	-3.4
6	子どもを預けにくい環境(核家族化の進行や保育施設・サービスの不足など)	22.0	6	夫婦や個人の生活を大切にす価値観を持つ人の増加	21.5	2.6
7	夫婦や個人の生活を大切にす価値観を持つ人の増加	18.9	7	子どもを預けにくい環境(核家族化の進行や保育施設・サービスの不足など)	20.7	-1.3
8	子育てや家事への配偶者の協力不足	8.8	8	その他	8.3	3.7
9	その他	4.6	9	子育てや家事への配偶者の協力不足	7.9	-0.9

「非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入」の割合が 67.5%（66.4%）ともっとも高く、次いで「晩婚化の進行や婚姻数の減少」が 51.6%（54.5%）、「子育て費用や教育費などの経済的な負担」が 50.9%（53.5%）で続き、この3項目が5割を上回る高い割合となった。経済面に関する項目の割合が上位にあることから、経済状況が秋田市の少子化に大きく影響しているとの認識がうかがえる。

また、この結果を前回調査と比較すると、4位以下は順位の入れ替えがあるものの、上位3項目の順位は前回調査と同じであり、割合の増減も総じて 5.0 ポイント以内と少ないことから、秋田市の少子化の要因についての認識には大きな変化はないと言える。

【「少子化の要因として影響が大きいと思うもの」上位5項目（年代別）】

今回調査

順位	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	子育て費用や教育費などの経済的負担	子育て費用や教育費などの経済的負担	子育て費用や教育費などの経済的負担	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入
2	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	子育て費用や教育費などの経済的負担	子育て費用や教育費などの経済的負担	晩婚化の進行や婚姻数の減少	晩婚化の進行や婚姻数の減少
3	晩婚化の進行や婚姻数の減少	晩婚化の進行や婚姻数の減少	晩婚化の進行や婚姻数の減少	晩婚化の進行や婚姻数の減少	晩婚化の進行や婚姻数の減少	子育て費用や教育費などの経済的負担	子育て費用や教育費などの経済的負担
4	男女の出会いの機会の減少	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足(※)	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	子どもを預けにくい環境(核家族化の進行や保育施設・サービスの不足など)	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足(※)	男女の出会いの機会の減少	男女の出会いの機会の減少
5	子どもを預けにくい環境(核家族化の進行や保育施設・サービスの不足など)	男女の出会いの機会の減少(※)	子どもを預けにくい環境(核家族化の進行や保育施設・サービスの不足など)	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	夫婦や個人の生活を大切にする価値観を持つ人の増加(※)	夫婦や個人の生活を大切にする価値観を持つ人の増加	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足
5	-	子どもを預けにくい環境(核家族化の進行や保育施設・サービスの不足など)	-	-	男女の出会いの機会の減少	-	-

※同率順位

前回調査

順位	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	子育て費用や教育費などの経済的負担	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入
2	子育て費用や教育費などの経済的負担	子育て費用や教育費などの経済的負担	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	子育て費用や教育費などの経済的負担	晩婚化の進行や婚姻数の減少	晩婚化の進行や婚姻数の減少	晩婚化の進行や婚姻数の減少
3	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	晩婚化の進行や婚姻数の減少	晩婚化の進行や婚姻数の減少	晩婚化の進行や婚姻数の減少	子育て費用や教育費などの経済的負担	子育て費用や教育費などの経済的負担	子育て費用や教育費などの経済的負担
4	晩婚化の進行や婚姻数の減少	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	男女の出会いの機会の減少
5	男女の出会いの機会の減少	男女の出会いの機会の減少	子どもを預けにくい環境(核家族化の進行や保育施設・サービスの不足など)	男女の出会いの機会の減少	男女の出会いの機会の減少	男女の出会いの機会の減少	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足

【「少子化の要因として影響が大きいと思うもの」上位5項目（子どもの有無別）】

順位	1人以上	いない
1	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入	非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入
2	晩婚化の進行や婚姻数の減少	子育て費用や教育費などの経済的負担
3	子育て費用や教育費などの経済的負担	晩婚化の進行や婚姻数の減少
4	男女の出会いの機会の減少	男女の出会いの機会の減少
5	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足	子育てと仕事の両立に対する職場の理解不足

年代別では、10代から30代の若年層においては「子育て費用や教育費などの経済的負担」がもっとも高いのに対して、40代以上においては「非正規雇用など不安定な雇用環境や少ない収入」がもっとも高く、年代間における認識の差が表れた。

子どもの有無別では、「晩婚化の進行や婚姻数の減少」は子どもが1人以上が、子どもがいない人よりも高かった。それ以外の項目については大きな差は見られない。

(2) 秋田市に住み続けたいか (問5②)

【「住み続けたい」「事情が許せば、住み続けたい」の割合】

区分		「住み続けたい」「事情が許せば、住み続けたい」 の割合(前回調査比)
全 体		73.1 % (－ 1.3ポイント)
年 代	10代	33.3 % (－ 3.3ポイント)
	20代	60.8 % (+ 4.4ポイント)
	30代	67.6 % (+ 4.7ポイント)
	40代	61.0 % (－ 9.8ポイント)
	50代	70.4 % (+ 1.7ポイント)
	60代	77.3 % (－ 0.2ポイント)
	70代以上	84.9 % (－ 4.4ポイント)
出 身 地	秋田市内	74.9 % (－ 3.1ポイント)
	秋田市以外の秋田県内	74.3 % (+ 0.1ポイント)
	秋田県外	58.8 % (－ 0.2ポイント)

「住み続けたい」と「事情が許せば、住み続けたい」を合わせた割合が73.1% (74.4%) と、前回調査結果 (74.4%) から1.3ポイント減少したが、全体の7割以上を占めた。

年代別では、10代は33.3% (36.6%) と3割台にとどまり、前回調査と比較して3.3ポイント減少している。一方、20代以上の全ての年代では6割を超えており、50代以上では年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向が見られる。

出身地別では、「秋田市内」が74.9% (78.0%)、「秋田市以外の秋田県内」が74.3% (74.2%) と高い割合を維持した。一方で、「秋田県外」が58.8% (59.0%) と前回調査と同様に相対的に低く、秋田県外出身者からも住み続けたいと思われるまちづくりを進めていくことが必要である。

【市外で暮らしたい人と力を入れて欲しい施策の関係】

※「秋田市に住み続けたいか (問5②)」と「力を入れて欲しい施策 (問3①)」のクロス集計

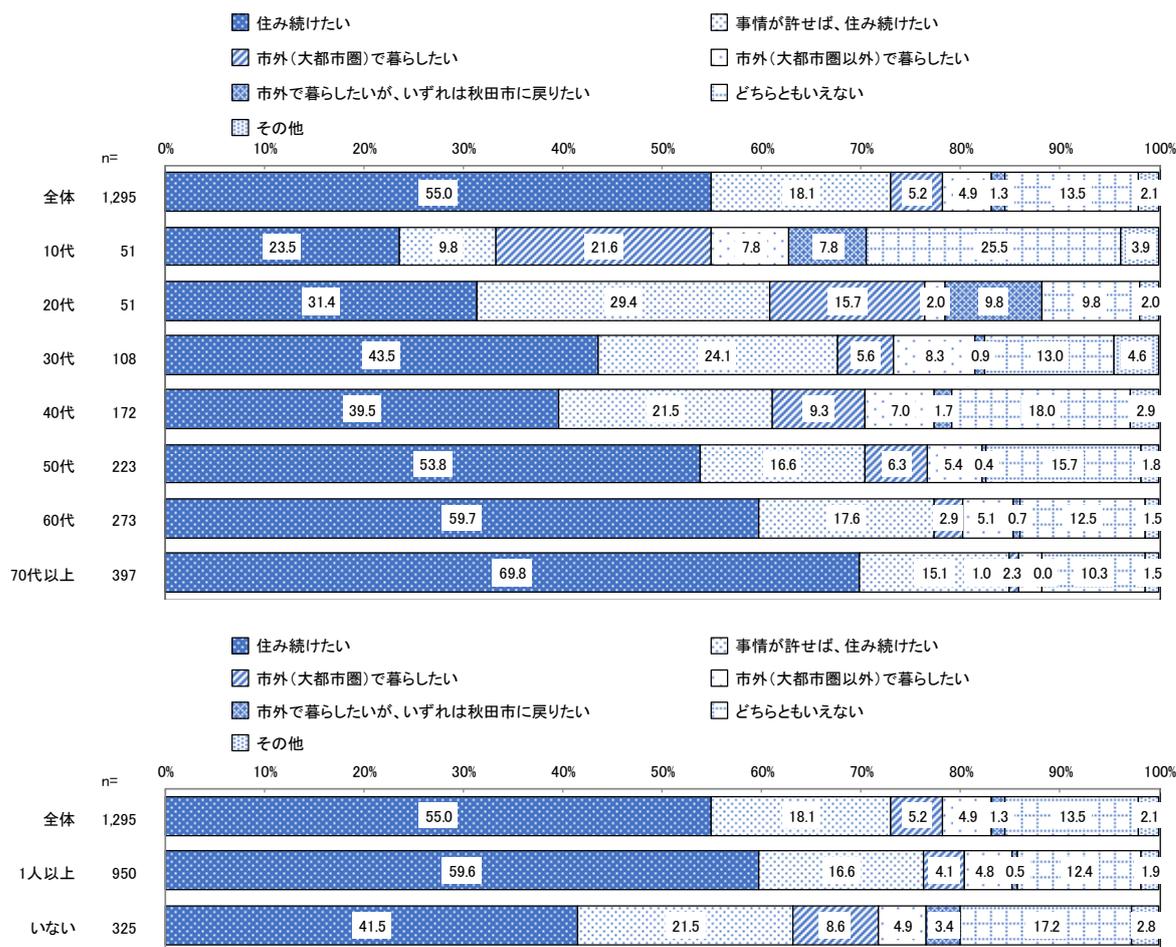
順位	市外(大都市圏)で暮らしたい	市外(大都市圏以外)で暮らしたい	市外で暮らしたいが、いずれは秋田市に戻りたい
1	冬期の除雪	冬期の除雪	中心市街地のにぎわい創出(※)
2	雇用対策	道路交通網の整備	観光振興(※)
3	中心市街地のにぎわい創出	雇用対策(※)	冬期の除雪(※)
4	バス路線の維持	商工業の振興や地元経済の活性化(※)	雇用対策(※)
5	子育て支援	中心市街地のにぎわい創出(※)	子育て支援(※)
5	-	バス路線の維持(※)	バス路線の維持(※)
5	-	子育て支援(※)	大学など高等教育環境の整備(※)
5	-	-	芸術・文化振興(※)

※同率順位

「秋田市に住み続けたいか (問5②)」において、「市外で暮らしたい」と「市外で暮らしたいが、いずれは秋田市に戻りたい」と回答した人を対象として、「力を入れて欲しい施策 (問3①)」とのクロス集計を行ったところ、「市外で暮らしたいと回答した人」全体においては「冬期の除雪」がもっとも高い。一方で、「市外で暮らしたいが、いずれは秋田市に戻りたい」と回答した人においては「中心市街地のにぎわい創出」および「観光振興」がもっとも高い。

このことから、市外で暮らしたい人の中でも、秋田市への回帰の意向のある人とそうでない人の間でニーズが異なることがわかる。

### 【秋田市に住み続けたいか（年代別・子どもの有無別）】



年代別では、20代以上ではいずれの年代でも「住み続けたい」がもっとも高いが、10代においては「どちらともいえない」がもっとも高い。進学や就職を転機に転居する可能性があるためであるとうかがえる。

子どもの有無別では、子どもが1人以上で「住み続けたい」が大幅に高く、それ以外の選択肢においては、いずれも子どもがいない人の方が高かった。

(3) 秋田市に住み続けるために必要なこと(問5③)

【「秋田市に住み続けるために必要なこと」上位項目】

前回調査			今回調査			
順位	項目	割合 (%)	順位	項目	割合 (%)	前回との差
1	雇用の場の確保	61.6	1	雇用の場の確保	54.7	-6.9
2	若者にとって魅力のあるまちづくり	48.9	2	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	43.1	-1.5
3	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	44.6	3	若者にとって魅力のあるまちづくり	42.9	-6.0
4	高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実	29.5	4	高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実	25.7	-3.8
5	まちのにぎわいの創出	22.9	5	子育て支援の充実	24.6	2.4
6	子育て支援の充実	22.2	6	まちのにぎわいの創出	23.8	0.9

「雇用の場の確保」の割合が54.7%（61.6%）でもっとも高く、次いで「非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加」が43.1%（44.6%）、「若者にとって魅力のあるまちづくり」が42.9%（48.9%）と4割台で続き、以下「高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実」、「子育て支援の充実」がともに2割台で続いた。

雇用に関する項目の割合が高くなっており、秋田市に住み続けるためには雇用の安定が重要であるとの認識がうかがえる。また、「雇用の場の確保」および「若者にとって魅力のあるまちづくり」については前回調査から割合が減少し、「子育て支援の充実」は割合が増加し、5位に入った。

【「秋田市に住み続けるために必要なこと」上位5項目（年代別）】

今回調査

順位	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	雇用の場の確保	若者にとって魅力のあるまちづくり	子育て支援の充実	雇用の場の確保	雇用の場の確保	雇用の場の確保	雇用の場の確保
2	若者にとって魅力のあるまちづくり	子育て支援の充実	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	若者にとって魅力のあるまちづくり	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加
3	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	雇用の場の確保(※)	雇用の場の確保	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	若者にとって魅力のあるまちづくり	若者にとって魅力のあるまちづくり	若者にとって魅力のあるまちづくり
4	市内における進学先の選択肢の充実	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加(※)	若者にとって魅力のあるまちづくり	子育て支援の充実	まちなにぎわいの創出	高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実	高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実
5	子育て支援の充実(※)	まちなにぎわいの創出	まちなにぎわいの創出	まちなにぎわいの創出	高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実	まちなにぎわいの創出	まちなにぎわいの創出
5	まちなにぎわいの創出(※)	-	-	-	-	-	-

※同率順位

前回調査

順位	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	若者にとって魅力のあるまちづくり	若者にとって魅力のあるまちづくり	雇用の場の確保	雇用の場の確保	雇用の場の確保	雇用の場の確保	雇用の場の確保
2	雇用の場の確保	雇用の場の確保	若者にとって魅力のあるまちづくり	若者にとって魅力のあるまちづくり	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実
3	まちなにぎわいの創出	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	若者にとって魅力のあるまちづくり	若者にとって魅力のあるまちづくり	若者にとって魅力のあるまちづくり
4	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加	まちなにぎわいの創出	子育て支援の充実	子育て支援の充実(※)	高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実	高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実	非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加
5	市内における進学先の選択肢の充実	子育て支援の充実	まちなにぎわいの創出	まちなにぎわいの創出(※)	子育て支援の充実(※)	まちなにぎわいの創出	高齢者が地域社会でいきいきと活躍できる環境づくり
5	-	-	-	-	高齢者が地域社会でいきいきと活躍できる環境づくり(※)	-	-

※同率順位

年代別にみると、すべての年代で「雇用の場の確保」、「若者にとって魅力のあるまちづくり」、「非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加」が上位4項目以内に入っており、年齢を問わず要望が高くなっている。これは前回調査と同様の傾向である。また、20代、30代では「子育て支援の充実」が上位2項目に入った。

【「秋田市に住み続けるために必要なこと」 選択肢ごとの頻出語句 上位 10 項目（全体）】

1：雇用の場の確保		2：非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加		3：市内における進学先の選択肢の充実		4：子育て支援の充実	
企業	.266	収入	.189	大学	.271	子育て	.196
誘致	.184	雇用	.133	進学	.216	支援	.137
雇用	.139	正規	.097	学校	.133	保育	.087
秋田	.094	最低賃金	.092	高校	.095	子供	.079
働く	.090	企業	.083	選択肢	.095	無償	.076
仕事	.080	賃金	.077	県外	.093	子ども	.073
人	.067	安定	.074	専門	.076	思う	.071
少ない	.063	増加	.072	県内	.074	環境	.064
場	.063	生活	.065	少ない	.074	無料	.051
確保	.059	少ない	.044	流出	.062	施設	.050
5：まちのにぎわいの創出		6：若者にとって魅力のあるまちづくり		7：高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実		8：高齢者が地域社会でいきいきと活躍できる環境づくり	
イベント	.116	若者	.217	介護	.206	高齢	.200
駅前	.088	秋田	.129	高齢	.165	地域	.106
思う	.069	思う	.118	サービス	.135	社会	.085
施設	.066	魅力	.103	福祉	.133	場	.066
中心	.063	施設	.093	施設	.099	参加	.050
駐車	.059	必要	.055	充実	.065	活躍	.049
人	.051	場所	.053	利用	.058	雇用	.041
魅力	.046	若い	.050	生活	.051	健康	.040
活性	.041	娯楽	.045	高い	.048	イベント	.039
店舗	.040	少ない	.045	必要	.045	活動	.037
9：地域の絆づくりの推進		10：豊かな自然環境など現在の市の魅力の維持		12：その他			
町内	.214	自然	.225	駅	.064		
地域	.150	環境	.087	秋田	.060		
近所	.081	維持	.084	思う	.056		
参加	.071	魅力	.069	車	.055		
会費	.059	秋田	.056	バス	.054		
絆	.059	雑草	.048	多い	.051		
捨てる	.056	美しい	.047	道路	.046		
世の中	.054	クマ	.046	交通	.038		
災害	.053	発電	.046	生活	.037		
ゴミ	.051	風力	.046	利用	.036		

※表内の数値は選択肢ごとの全体の語句数に対する出現率を示す

問 5 ③で回答した選択肢について、それぞれの項目の実現のために必要だと思うことを自由記述形式で回答いただいたところ、661 人から 1,609 件の回答をいただいた。その回答内容から頻出の語句を上位 10 項目抽出した。

全体で回答数が 1 位であった「雇用の場の確保」をみると、「企業」および「誘致」といった産業振興に関わる語句が頻出であることがわかる。

【「秋田市に住み続けるために必要なこと」 選択肢ごとの頻出語句 上位 10 項目（10～30 代）】

1：雇用の場の確保		2：非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加		3：市内における進学先の選択肢の充実		4：子育て支援の充実	
企業	.256	収入	.246	大学	.324	子育て	.229
誘致	.203	増加	.141	進学	.206	支援	.150
雇用	.113	企業	.110	学校	.171	無償	.097
仕事	.101	最低賃金	.102	学部	.167	思う	.090
働く	.085	雇用	.100	学科	.133	施設	.086
環境	.076	上げる	.081	県内	.125	保育	.084
人	.073	給料	.068	選択肢	.111	子供	.080
増やす	.059	賃金	.065	分野	.097	充実	.077
賃金	.054	人口	.060	増やす	.095	子ども	.074
人口	.051	増やす	.056	市内	.094	少ない	.071
5：まちのにぎわいの創出		6：若者にとって魅力のあるまちづくり		7：高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実		8：高齢者が地域社会でいきいきと活躍できる環境づくり	
イベント	.113	若者	.206	介護	.333	高齢	.217
思う	.104	施設	.147	高齢	.180	通院	.200
人	.091	秋田	.136	福祉	.179	開催	.167
商業	.076	増やす	.084	サービス	.152	参加	.143
施設	.070	イベント	.079	分かる	.103	社会	.133
子供	.069	少ない	.073	施設	.087	場	.111
魅力	.069	場所	.062	スーパー	.074	リタイア	.111
発展	.066	娯楽	.059	介	.074	継続	.111
駅前	.065	レジャー	.051	看護	.074	貢献	.111
参加	.065	イオン	.050	病院	.071	除雪	.111
9：地域の絆づくりの推進		10：豊かな自然環境など現在の市の魅力の維持		12：その他			
地域	.200	自然	.375	駅	.109		
NPO	.125	維持	.167	秋田	.105		
コミュニケー	.125	環境	.146	思う	.102		
挨拶	.125	ゴミ	.125	多い	.100		
一体	.125	設置	.125	道路	.095		
運転	.125	納税	.120	御所野	.076		
掛け合い	.125	ゴミ箱	.083	車線	.066		
気持ち	.125	パネル	.083	実際	.065		
緊張	.125	ポイ捨て	.083	バス	.062		
個々	.125	誇れる	.083	車	.062		

※表内の数値は選択肢ごとの全体の語句数に対する出現率を示す

全体の回答内容から 10～30 代の回答者のみに絞り、全体と同様に、選択肢ごとに頻出の語句を上位 10 項目抽出した。その結果、若者に関する選択肢「若者にとって魅力のあるまちづくり」（選択肢「6」）に着目すると、「施設」という語句の出現率が上位となり、「増やす」および「イベント」という語句が上位 10 項目に入った。

【「秋田市に住み続けるために必要なこと」 選択肢ごとの頻出語句 上位 10 項目（子どもが 1 人以上）】

1：雇用の場の確保		2：非正規雇用など不安定な雇用の改善や収入の増加		3：市内における進学先の選択肢の充実		4：子育て支援の充実	
企業	.275	収入	.165	大学	.266	子育て	.188
誘致	.192	雇用	.130	進学	.228	支援	.151
雇用	.144	最低賃金	.105	学校	.136	保育	.106
働く	.100	正規	.097	選択肢	.100	無償	.095
秋田	.098	賃金	.087	県外	.098	子ども	.091
仕事	.082	企業	.086	高校	.093	子供	.087
場	.071	安定	.075	少ない	.080	環境	.069
人	.071	生活	.055	専門	.067	思う	.069
県外	.066	働く	.055	秋田	.067	無料	.061
確保	.062	必要	.046	県内	.064	給食	.058
5：まちのにぎわいの創出		6：若者にとって魅力のあるまちづくり		7：高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実		8：高齢者が地域社会でいきいきと活躍できる環境づくり	
イベント	.105	若者	.227	介護	.210	高齢	.191
駅前	.089	秋田	.138	高齢	.162	地域	.139
施設	.067	思う	.137	福祉	.152	社会	.093
中心	.065	魅力	.106	サービス	.135	活躍	.071
駐車	.060	施設	.084	施設	.132	場	.045
活性	.048	若い	.059	利用	.080	健康	.045
町	.047	必要	.053	充実	.073	元気	.044
人	.044	少ない	.051	高い	.066	活動	.043
開発	.043	県外	.049	受ける	.049	交流	.042
必要	.040	場所	.043	安心	.049	参加	.042
9：地域の絆づくりの推進		10：豊かな自然環境など現在の市の魅力の維持		12：その他			
町内	.333	自然	.188	対策	.058		
地域	.133	環境	.075	クマ	.052		
参加	.125	雑草	.074	秋田	.049		
ゴミ	.091	魅力	.073	車	.047		
会費	.091	クマ	.070	生活	.042		
捨てる	.091	維持	.059	手続き	.041		
災害	.080	管理	.059	必要	.041		
大切	.059	美しい	.059	話	.041		
年齢	.057	道路	.055	窓口	.040		
レクリエーション	.048	考える	.055	健康	.039		

※表内の数値は選択肢ごとの全体の語句数に対する出現率を示す

全体の回答内容から子どもが 1 人以上の回答者のみに絞り、全体と同様に、選択肢ごとに頻出の語句を上位 10 項目抽出した。その結果、子育てに関する選択肢「子育て支援の充実」（選択肢「4」）では全体と大きな差は見られなかった。



「秋田市に住み続けるために必要なこと」における自由記述回答の一部を抜粋し、掲載する。

分類	自由記述内容
1 雇 用 の 場 の 確 保	安定した収入が得られる職場、福利厚生がきちんとしている職場が多数あれば秋田市を離れる若い人は少なくなると思う。
	都市部の企業と連携ができる企業をたくさん増やす。社会福祉、社会保障がしっかりし、安心して仕事ができる会社を増やす。
	若い人にとって働く場がないと住み続けられない。しかし、働く場だけの問題でないと思う。やりがい、生きがいのある仕事を望んでいると思う。給料が首都圏より低くてもやりがいのある仕事なら秋田に残ると思う。
	仕事があることが重要だと思います。若者が秋田市にいるためには今後の（働く場）地域産業の大きな発展がないと難しいのではないのでしょうか。子育て中の親の立場からも、仕事がないと市外に行くことは止められません。
	65才以上の雇用が少ない様に思います。もう少し増やしてほしいと思います。
	子供が学校を卒業する時、県外へ目を向けるきっかけの一つが、魅力ある企業が県外に多いという事でした。秋田にいたいけど、やりたい仕事の企業が少なく、県外に行くしかないという現状なので増やして
	他県に比べ、正社員やパート、アルバイトの求人も少ない。仕事が少ない。収入が少ない。消費に回せない悪循環。雪国こそリモートワークの仕事を増やしてもいいのでは？
	大学があり他県からも来て進学しているのに秋田の雇用が充実していないので、皆、卒業後は出ていってしまう現実をどうにかしないと。
	とにかく働き先が少ない。リモートワークが普及しているので、県外の企業などの仕事を秋田の自宅などで出来るよう、資格取得などの支援をして欲しい。そうすれば若者も秋田に残るのでは？
	単に雇用の枠を増やすだけでなく、介護や子育てとの両立への理解や福利厚生の充実 誘致企業に依存するだけでなく、地元企業の成長を促すような施策に力を入れるべきと考える。製造業で高付加価値商品ができれば、周辺産業への波及効果も期待できる。
2 雇 用 の 改 善 や 収 入 の 増 加	今の若い人は、家を建てローンは大変だと思います。子供にもお金がかかります。共働きはあたりまえ（私達の頃は退職金で建てる専業主婦）本当に大変だと思いますし、若い人頑張っていると思います。
	子どもがいると働ける時間や環境がなくむずかしいためフルタイムで働ける人は限られると思う。パートなど自由に働ける環境がもっと整うといいなと思う。
	物価上昇などで個人支出が増すなか、収入面は、さほど増加しているとはいえない状況で、雇い主の厳しさも分からなくはないが、将来に不安を感じる。
	非正規雇用で収入が少ないと子供を持ちたいと思う夫婦が少なくなる。そもそも婚姻率も下がるので、なんとか収入を増加させてほしい。
	元気な経営者を増やす。若い人が起業しやすい場を作る。

2 雇用の改善や収入の増加 非正規雇用など不安定な	<p>地元の個人企業が多く、いわゆる全国規模の大手企業が少ない。そのため、賃金も低く雇用人数も少ない。各企業の賃金を上げるか、全国規模の大手企業を積極的に誘致すべき。まずは各企業の収入をあげることで、秋田にいても豊かな生活ができることを示し、就職を機に県外は行く人をとどめたい。</p>
	<p>企業誘致も必要だが、農業法人の設立やそれに対するバックアップ等、秋田らしい産業の創出</p>
	<p>非正規職員でも能力が高い人材を積極的に採用し、採用した職場を優遇するなど、改善して欲しい。</p>
	<p>非正規雇用者のキャリア形成を支援することも重要です。教育・訓練プログラムの充実やスキルアップの機会の提供・キャリアアップのサポート支援を行ってほしい。</p>
	<p>結婚願望があっても職が不安定では、結婚出来ないでいる人（特に男性）が周囲に結構居ります。</p>
3 市内における進学先の選択肢の充実	<p>高校を卒業して大学に進学するとなかなか秋田に帰って来ません。残りたいと思う進学先、就職先を増やしてほしい。</p>
	<p>高校、大学の選択肢が少なすぎるので、私立学校の誘致など若者が地元で勉強できる環境整備が必要（スポーツ等も含む）</p>
	<p>高校・大学時代に県内にどどまってもらえれば、成人後の人口流出を抑えられる。大学の学部・学科を増やし、県内の就職にそのまま活かせる企業に勤める、この流れを確立したい。秋田の企業に勤めるために学ぶと良い学科をつくる。同じ学科でも複数の大学にあると良い。…保育・教員・農業・福祉・医療・P C、I T、飲食・調理…スポーツ科学</p>
	<p>学費の補助をもっと充実させる。秋田市内で〇年働いたら免除できるような</p>
	<p>大学数の確保、奨学金制度の拡充</p>
	<p>本当はすでに選択肢は十分あると考えることもできる。しかし、若いうちは目先のことしか見えていないので、目先の目的だけで進学先を決めてしまいがちだろう。だからこそ、今ある進学先がどの専門に関連しているのか、どの専門についての基礎として有用なのかを見極める情報提供の充実こそ必要だと思う。</p>

4 子育て支援の充実	秋田市は子供を生み育てやすい施策は良いと思うが、これらの取り組み（他県にくらべて）は良いんだよ！というPRがもっと必要。
	乳幼児などのシッター制度や、もっと子育てに必要な施設や制度を拡充すべき。
	子供を産んで初めて、生活にもっともっと支援が必要だとわかりました。とにかくお金がかかります。保育料無償化や医療費の無償化をお願いします。（0才から）育てたいのにお金がないから少子化につながっています。
	親が負担をかかえてしまう事がないように子どもと親の双方のメンタルヘルスの充実。（悩みやストレスを言いやすい環境づくり）
	職場に、子育ての不安や、仕事と家庭の両立の悩み等をアドバイスしてくれるアドバイザーがいれば良いと思う。
	県外にある大型施設のアイデアをとり入れるべき。親が休みの日に子供と共に楽しめる場所が少なすぎる。（結果、県外へ出かけることになる。）
	子育てしやすくなるような環境整備、そしてそれをしっかりPRすること
	子育てを心配なく行政がバックアップする事がわかれば、若者もあまり考えずに出産すると思う。結果子どもが出来れば自分達の生活や子どもに教育や責任がともなうから子どもを作らない人も安心していけると思う。
	スポーツ、芸術、文化、それぞれ、子供達が積極的に参加できる環境整備が必要。例えば場所の確保や移動手段、指導者などを増やさないと市外に出て行かざるを得ない状況となっているので、解消すべき。
	給与の増加、労働時間の減少（リモートワークの併用を含む）が前提だと思う。夫婦共働きでなければ、経済的に子どもを産み育てることが難しい部分を解消して欲しい。
高齢者と子育てが必要な親とのマッチングの仕組み作り（例、ヘルプが必要な時のじじ／ばばデリバリー）	
5 まちのにぎわいの創出	ショッピングモール等効外型施設が多く車社会が前提になっている。バス利用での買物や飲食ができるよう秋田駅前前の活性化を図る。
	自然環境を活用した魅力ある環境づくりをしてはどうか。
	空地や空店舗が目立つので、中心部に商業施設や病院等をもっと誘致出来れば、人の流れが生まれ街に活気が戻ると思う。
	県内外からの幅広い、良いアイデアに耳を傾け、保守的にならず良い物や人を受け入れる姿勢。
	イベントだけではなく、日常時での秋田駅周辺の活性化が必要。 日頃から、秋田駅周辺に足が向くような、交通環境、店舗、人が集まる場所が必要だと思う。

5 まちのにぎわいの創出	イベントやマルシェなどではにぎわっているように感じるが、定期的にもっと開催してもいいと思う。オープンカフェなど増えれば、老若男女にぎわえると思う。
	駅前の駐車場の増加と無料化。目的がある時以外、駐車場がネックとなり、なかなか駅前に行く事がない。5分～10分くらい歩いて無料駐車場があるか、例えば2～3時間でも無料であれば行きやすくなる。
	駅中心に発展させるのは今の秋田市には無理がある。車社会なのだから、もっと他の土地を活用して人の流れを分散させたほうがいい。
	ミルハス、美術館などをせっかく整備したのだから、駅前から中通りは特に若者からお年寄まで集いやすい環境整備をすべきである。シャッター通りのままでは継続的ににぎわいは来ないと思われる。
	秋田駅を中心ににぎわいを取り戻し、特に週末は楽しみが増えました。このにぎわいがもっと観光につながるようなものがあればいいと思います。
	秋田駅周辺での賑わいを回復するのはスペースや駐車場（無料）などに無理があり、向上は見込めません。周辺地区へ賑わいを創出出来るスペースを作り、それに伴う交通の循環を作れば良いと思います。
	学生時代を秋田で過ごした人が今後も住み続けたい又は戻ってきたいと思えるような、ポジティブな記憶として残るまちづくり。人口が減っていく中、いかに中心市街地への動線を向上し、人の流れを集約していくかが重要になってくると思われる。（現在はイベントがないときは駅前の人通りも淋しいように思えるので）
6 若者にとって魅力のあるまちづくり	未来を担う若者が活躍できる場を。
	人口を増やすため色んな施策が行なわれているが、人口がこの先増えていくことは難しい。ある程度予測した人口に見合った街づくりを考えていく必要がある。
	秋田には何も無い。残念ながらよく聞く言葉です。自分もそう思った若い時もありましたが、他には無い魅力もたくさんあると、今は思うのですが若者には届かないのかなとも感じます。商業施設の充実、アミューズメント施設の建設、それに伴った交通網を発達させるなど…秋田にいても楽しめる何かがあれば。
	もっと秋田の魅力の発信が必要だと思う。 秋田には何にもないと思う若者が多く、結婚、子育てが安心してできる環境づくりも大事と思う。
	年配の経験者の存在も大事だが、とにかく若い人が住みたい、楽しいと思える場が無い。（少なすぎる）秋田に戻りたくても住みにくいとを感じるのでは？
	若者が集えるイベントを若者が実行委員となり、若者が若者を集めるイベント会（祭）を提供する。例えば、音楽、ラップ、スケボー自転車大会等。
	これはどうしようもないが、せめて交通がよければ県外へ遊びに行ってもすぐに戻ってこられるなら住みやすく定住につながるかも。
	若者がこんなことをやってみたいと思っても、失敗を恐れてできないという事がないように、経済的負担は少なくしてチャレンジできるようにしてあげる。

6 若者にとって魅力のあるまちづくり	若者向けのおしゃれな店や空間づくり。屋外型テーマパークやアミューズメント施設などの充実。若者が交流する場の創出。
	若者にアンケートなどをとり、どうしたらいい町作りができるのか意見交換して、具体的に1つでも2つでも取り組みがみえるようにしたらよい。学生の取り込みも必要！
	若者にとって魅力がある町とは小学生位の時の教育だと思います。思想教育ではなく子供の頃から自分で考えさせて大人と一緒に考えてあげる事が将来の未来を作ると思う。
	「秋田に住めばこんなメリットもあるぞ」という施策が欲しい。今以上に若者へPRできるものがあればいいなあ。
	県外の方が魅力的だから秋田を離れてしまう 仕事、収入、観光スポットなど若い人がもっと秋田を好きでいてくれる対策
	低賃金なので若物の流出は止まらない。交通網を便利にして駅前の商業施設を増やし、賃金を上げ、インフラ整備を早く進めることが必要。
	やはり地元で安定した会社があり、子供2人位持てるような賃金がもらえるようであればよいのだが、又、若者が起業できるような環境を整えてほしい。
7 高齢者向けの福祉・介護サービスなどの充実	安心・安全な老後を過ごせるような福祉・介護サービスが必要。
	これから、年齢が上の方がふえていくと思うので、高齢者が住みやすい街を作っていくのも良いと思う。若者対象だけでなく日本の中でそういう街を作っていくのも地方のモデルケースになるのではないかな。フィンランドやそういう国の様な都市を秋田市がしていくことで、地方から仕事退職後などに移り住む方もふえていくのではないかなと思う。
	運転ができなくなった高齢者の行動が狭くならないよう、いつまでも生き生きと生活できる交通システムの開発。
	介護職員の人数をもっと増やす政策が必要、もう少し賃金を上げるべきだと思う。
	高齢者が楽しめるスポーツサークルや文化サークルをもっと多くなるようにして欲しい。 あっても知らないだけかもしれないので各サークルの紹介や入会案内をもっと宣伝するようにして欲しい。
	車がないと移動が大変で生活しにくい。タクシーなど安く気軽に利用できるようになるとよい。
	介護を受ける身になる時は、色々相談も多くなると思う。即対応してもらえれば安心感も増すと思う。その為には、行政もケアマネも、介護現場も、常に学び続けるプロを増やしてほしい。その為には研修会に参加しやすいように、人を増やす。
	介護士が働く労働環境の充実を計ってほしい。
	高齢者施設の質の向上、介護士が働きやすい職場づくり
	高齢者施設不足の解消のための支援（補助金等）
福祉関連の情報の拡散、ハードルの低い相談窓口	

8 高齢者が地域社会でいきいきと活躍できる環境づくり	現在の自分は(人嫌いでは無い)出来るだけ他者と関わりを持たずに生活する事に慣れてしまい社会的な参加も避けて生活しているが地域住民が近場で気兼ねなく交流出来る憩いの場があれば良いと思う。
	自分の親世代が地域で楽しく過ごせたら、安心できる。
	元気な高齢者は、もっと積極的に社会へ、ボランティアや、少なくとも報酬もらえる様な機会を得られる様になるとイイ！！
	定年制の見直し（可能な限り、働けるように）収入を得ることで、自分に自信を持ち、不安も少なくなると思う。
	高齢者の能力に合わせた雇用を増やす。外に出るきっかけ作りとして、できる仕事を増やしてやりがい、生きがいを感じてもらう。
	市内各町内に、地域の老人クラブを作る様働きかけて欲しい。老人クラブが増加して行くと、色々な環境が生まれてくる。（現在は少ない）
	高齢者だろうと若者だろうと、外へ出て行く環境があれば自ずと地域で活躍できそうな気がします。そのためには徒歩圏内に集える場所、移動手段の確保が大事だと思います。
	秋田の人は基本はずかしがり屋さんです。自分が高齢だと認識していても自分は「いいや」となります。地域の絆も大切なので回りの人からの声かけから動き出すようにしたらいいのかも。
高齢者向け、さまざまな講座を企画し、広報を活用し、多くの高齢者に参加していただいて、ネットワークを作る。	
高齢者の人たちでも楽しめるように子供達も参加可能な祭りなどを開催することで全年代の人が他の年代の人からしか得られないエネルギーが得られると思った。	
9 地域の絆づくりの推進	現在はとなりにどんな人が住んでいるのかも知らない時代。せめて向こう3軒両どなりは常に仲良くしていきたい。
	本当のふるさとづくりを目指してほしい。
	年齢に関係なく交流できるイベントの実施など
	地域の後継者造りが大切。
	近所付き合いが疎遠になっている昨今、いざという時の地域の絆は頼りです。
	町内は高齢化し、空き家も増えてはいるが、町内会など、近所の人たちとの会話や、集りに参加したりして、孤立しないようにしたい。

10 現在の市の魅力の維持 豊かな自然環境など	免許、車がないと不便な生活。今後のことを考えると、「アキカ」のように行動範囲を広げられる取組は利用したい（している）し、ありがたい。
	自然やよい所はたくさんあるがPR不足や工夫のたりなさを感じます。
	田・畑の活用を推進し農業の発展を推進する。林業も同じこれらを大きな産業に育成してゆく。これらの秋田の特徴を活かす道を第一にする。
	あまり、都会化せずに自然を残しつつ、姿をかえられれば…新しい建物よりはある施設の充実や利便性を考えての修復に力を入れた方が良いかなと思う。
	千秋公園など、市民が安心してくつろげる場所は、そのまま残して欲しいです。
	公園など子ども達が自然と触れ合える場所をもっと充実させて欲しい。 遊具や噴水など、一日中遊んでられるような場所
	街並みの美化、落ち葉、雑草の駆除、街路樹の管理・美化 維持管理費の増額によりきれいな公共空間を維持すること
12 その他	外出しても、少し休める椅子（ベンチ等）があると助かります。疲れて歩けなくなる度に、飲食、喫茶店には立ち寄れないので。
	冬の除雪も含めた広義の防災体制の充実 特に大雨対策も
	魅力があっても秋田を離れる若い人達がいる。早い時期から情報発信をしながら若い人と意見を交じえる場を設けどんどんやっていくべきだと思う。
	クマ対策。
	秋田市だけでは解決できないと思うが、他県や大都市への移動が大変すぎるので、高速道路の建設や、鉄道の速さ、飛行機の便数増加など、県に働きかけてほしい。
町内の役員をしているが、毎年同じ人が担当するためせめて、税金の半分免除などかなりのメリットが秋田市独自であればいいと思う。行政の変わりに細かい対応しているため給料くらいはほしい。それくらいしなければ、新しい人が取り組んでもくれないと思う。	

## 5. 市民・地域活動について

### (1) 市民・地域活動への関心の有無と参加状況（問6①②）

【 市民・地域活動への関心の有無と参加状況 】

項目	「関心がある」「ある程度関心がある」の割合(%)	「積極的に参加している」「ときどき参加している」の割合(%)
NPO・ボランティアなどの市民活動(まちづくり、高齢者・障がい者福祉、子育て、スポーツ、美化、防犯・防災、環境、国際協力など団体に参加して行う活動)	38.3 (－ 7.0ポイント)	13.2 (－ 1.8ポイント)
地縁的な活動(自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、消防団、子ども会、PTA、祭りなど地域の一員として行う活動)	32.8 (－ 4.1ポイント)	29.0 (－ 3.5ポイント)
スポーツ・趣味・娯楽活動(各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習活動など個人で参加している活動)	49.1 (－ 4.7ポイント)	23.1 (－ 4.3ポイント)

「スポーツ・趣味・娯楽活動（各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習活動など個人で参加している活動）」では、「関心がある」「ある程度関心がある」の割合が 49.1%（53.8%）と関心の高さがうかがえるが、「積極的に参加している」「ときどき参加している」は 23.1%（27.4%）となった。

「NPO・ボランティアなどの市民活動（まちづくり、高齢者・障がい者福祉、子育て、スポーツ、美化、防犯・防災、環境、国際協力など団体に参加して行う活動）」については、「関心がある」「ある程度関心がある」の割合が 38.3%（45.3%）であるのに対し、「積極的に参加している」「ときどき参加している」の割合は 13.2%（15.0%）と1割台となった。

これら2つの活動については、関心を持っているものの参加には至っていないことが推察される。

一方で、「地縁的な活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、消防団、子ども会、PTA、祭りなど地域の一員として行う活動）」については、「関心がある」「ある程度関心がある」の割合が 32.8%（36.9%）、「積極的に参加している」「ときどき参加している」の割合が 29.0%（32.5%）で、同水準となった。

## (2) 市民・地域活動に参加したことがない理由（問6③）

【NPOなどの市民活動等に参加したことがない理由（割合が高い順）上位5項目】

順位	項目	割合(%)
1	参加の機会がないから	46.6 (－0.4ポイント)
2	多忙だから	45.5 (+3.2ポイント)
3	興味・関心がないから	42.5 (+2.8ポイント)
4	活動内容がわからないから	29.9 (－1.5ポイント)
5	必要性を感じていないから	22.3 (－3.9ポイント)

「NPO・ボランティアなどの市民活動（まちづくり、高齢者・障がい者福祉、子育て、スポーツ、美化、防犯・防災、環境、国際協力など団体に参加して行う活動）」および「地縁的な活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、消防団、子ども会、PTA、祭りなど地域の一員として行う活動）」のどちらも参加したことがない人の参加したことがない理由としては、「参加の機会がないから」の割合が46.6%（47.0%）でもっとも高いほか、「多忙だから」および「興味・関心がないから」が4割以上で上位であった。

## 6. 幸福感について

### (1) 現在の幸福実感（問7①）

【現在の幸福度】

(単位:%)

	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	平均	
全体	0.8	0.4	1.6	7.0	7.0	21.0	14.1	20.7	17.2	5.5	4.6	6.21	
性別	男	0.6	0.4	1.8	8.9	6.6	23.2	14.4	19.3	16.5	3.7	4.7	6.06
	女	0.7	0.1	1.3	5.0	7.2	20.3	13.7	21.9	18.3	6.7	4.7	6.38
	その他	5.6	11.1	11.1	22.2	11.1	0.0	22.2	5.6	5.6	0.0	5.6	4.17
年代	10代	0.0	0.0	2.0	7.8	11.8	9.8	21.6	21.6	9.8	9.8	5.9	6.29
	20代	2.0	0.0	0.0	3.9	11.8	17.6	21.6	15.7	17.6	3.9	5.9	6.22
	30代	0.9	0.0	4.7	7.5	5.6	17.8	15.0	18.7	18.7	5.6	5.6	6.20
	40代	1.8	1.2	1.8	4.8	5.4	19.8	15.6	21.0	17.4	4.2	7.2	6.28
	50代	0.9	0.9	1.4	9.4	8.0	20.7	8.9	19.7	21.6	5.2	3.3	6.11
	60代	0.8	0.0	1.9	7.9	7.2	22.6	14.3	23.0	14.3	4.2	3.8	6.06
	70代以上	0.0	0.0	0.8	5.9	5.9	24.3	14.1	20.5	17.9	6.4	4.3	6.36

※塗りつぶしは、属性ごとのもっとも頻度が高い点数

現在の幸福度について、0点（とても不幸せ）から10点（とても幸せ）までの点数で回答してもらったところ、平均は、全体では6.21点（6.30点）となった。性別では女性が6.38点（6.33点）と、男性の6.06点（6.29点）を0.32点上回っている。年代別では、70代以上の6.36点（6.41点）がもっとも高く、60代の6.06点（6.15点）がもっとも低くなっている。

点数の分布は、全体では「5点」の割合が21.0%ともっとも高く、次いで「7点」が20.7%、「8点」が17.2%、「6点」が14.1%で続いている。

(2) あなたの幸せにとって重要なこと（問7②）

【「あなたの幸せにとって重要なこと」上位項目】

前回調査			今回調査			
順位	項目	割合 (%)	順位	項目	割合 (%)	前回との差
1	心身が健康であること	68.2	1	心身が健康であること	66.3	-1.9
2	家族・友人関係が良好であること	58.2	3	家族・友人関係が良好であること	54.8	-3.4
3	十分な収入・消費があること	55.9	2	十分な収入・消費があること	60.0	4.1
4	仕事があること、仕事が安定していること	37.6	6	仕事があること、仕事が安定していること	33.3	-4.3
5	便利に移動・買い物できること	33.9	4	便利に移動・買い物できること	38.8	4.9
7	必要なときに十分な医療・福祉が受けられること	32.6	5	必要なときに十分な医療・福祉が受けられること	34.3	1.7

幸せにとって重要なことについては、「心身が健康であること」の割合が66.3%（68.2%）でもっとも高く、これに「十分な収入・消費があること」が60.0%（55.9%）、「家族・友人関係が良好であること」が54.8%（58.2%）と続き、以下は「便利に移動・買い物できること」、「必要なときに十分な医療・福祉が受けられること」などが続いている。

問 5③【「あなたの幸せにとって重要なこと」上位 5 項目（年代別）】

今回調査

順位	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	十分な収入・消費があること	十分な収入・消費があること	十分な収入・消費があること	十分な収入・消費があること	心身が健康であること	心身が健康であること	心身が健康であること
2	家族・友人関係が良好であること	家族・友人関係が良好であること	心身が健康であること	心身が健康であること	十分な収入・消費があること	十分な収入・消費があること	家族・友人関係が良好であること
3	余暇が充実していること	心身が健康であること	家族・友人関係が良好であること	家族・友人関係が良好であること	家族・友人関係が良好であること	家族・友人関係が良好であること	必要なときに十分な医療・福祉が受けられること
4	心身が健康であること	仕事があること、仕事安定していること	仕事があること、仕事安定していること	仕事があること、仕事安定していること	仕事があること、仕事安定していること	便利に移動・買い物できること	便利に移動・買い物できること
5	便利に移動・買い物できること	余暇が充実していること	余暇が充実していること	子どもや孫の成長を見守れること	便利に移動・買い物できること	必要なときに十分な医療・福祉が受けられること	十分な収入・消費があること

前回調査

順位	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	家族・友人関係が良好であること	十分な収入・消費があること	十分な収入・消費があること	心身が健康であること	心身が健康であること	心身が健康であること	心身が健康であること
2	心身が健康であること	家族・友人関係が良好であること	家族・友人関係が良好であること	十分な収入・消費があること	十分な収入・消費があること	家族・友人関係が良好であること	家族・友人関係が良好であること
3	十分な収入・消費があること	心身が健康であること	心身が健康であること	家族・友人関係が良好であること	仕事があること、仕事安定していること	十分な収入・消費があること	便利に移動・買い物できること
4	余暇が充実していること	余暇が充実していること	仕事があること、仕事安定していること	仕事があること、仕事安定していること	家族・友人関係が良好であること	子どもや孫の成長を見守れること	必要なときに十分な医療・福祉が受けられること
5	仕事があること、仕事安定していること(※)	仕事があること、仕事安定していること	仕事と生活の調和がとれていること	余暇が充実していること	余暇が充実していること	必要なときに十分な医療・福祉が受けられること	十分な収入・消費があること
5	便利に移動・買い物できること(※)	-	-	-	-	-	-

※同率順位

年代別では、10代から40代にかけては「十分な収入・消費があること」が、50代以上では「心身が健康であること」がもっとも高い。前回調査と比較すると、特に10代では上位5項目の中で入れ替わりがあった。

【幸福度別「あなたの幸せにとって重要なこと」上位 5 項目】

※「現在の幸福度(問 7 ①)」と「あなたの幸せにとって重要だと思うこと(問 7 ②)」のクロス集計

幸福度/順位	1	2	3	4	5	5
0点	十分な収入・消費があること(80.0%)	仕事があること、仕事安定していること(50.0%)	仕事充実していること(40.0%)(※)	余暇充実していること(40.0%)(※)	便利に移動・買い物できること(40.0%)(※)	必要なときに十分な医療・福祉が受けられること(40.0%)(※)
1点	十分な収入・消費があること(100.0%)	心身が健康であること(80.0%)	必要なときに十分な医療・福祉が受けられること(80.0%)	仕事があること、仕事安定していること(60.0%)(※)	仕事と生活の調和がとれていること(60.0%)(※)	-
2点	十分な収入・消費があること(70.0%)	心身が健康であること(55.0%)	仕事があること、仕事安定していること(40.0%)(※)	便利に移動・買い物できること(40.0%)(※)	家族・友人関係が良好であること(40.0%)(※)	-
3点	十分な収入・消費があること(75.3%)	心身が健康であること(61.2%)	仕事があること、仕事安定していること(47.1%)	家族・友人関係が良好であること(45.9%)	便利に移動・買い物できること(41.2%)	-
4点	十分な収入・消費があること(79.3%)	心身が健康であること(65.5%)	余暇が充実していること(37.9%)(※)	家族・友人関係が良好であること(37.9%)(※)	便利に移動・買い物できること(35.6%)	-
5点	心身が健康であること(66.0%)	十分な収入・消費があること(63.7%)	家族・友人関係が良好であること(47.9%)	便利に移動・買い物できること(42.9%)	仕事があること、仕事安定していること(34.4%)	-
6点	十分な収入・消費があること(61.4%)	心身が健康であること(60.2%)	家族・友人関係が良好であること(53.4%)	便利に移動・買い物できること(42.0%)	必要なときに十分な医療・福祉が受けられること(41.5%)	-
7点	心身が健康であること(71.0%)	家族・友人関係が良好であること(61.0%)	十分な収入・消費があること(55.6%)	仕事があること、仕事安定していること(37.5%)	便利に移動・買い物できること(36.3%)	-
8点	心身が健康であること(67.4%)	家族・友人関係が良好であること(66.0%)	十分な収入・消費があること(52.1%)	子どもや孫の成長を見守れること(41.9%)(※)	必要なときに十分な医療・福祉が受けられること(41.9%)(※)	-
9点	心身が健康であること(70.1%)	家族・友人関係が良好であること(65.7%)	十分な収入・消費があること(49.3%)	子どもや孫の成長を見守れること(43.3%)	便利に移動・買い物できること(38.8%)	-
10点	心身が健康であること(69.6%)	家族・友人関係が良好であること(60.7%)	十分な収入・消費があること(48.2%)	子どもや孫の成長を見守れること(42.9%)	仕事があること、仕事安定していること(37.5%)(※)	余暇が充実していること(37.5%)(※)

※同率順位

幸福度別では、幸福度が0点から4点にかけては「十分な収入・消費があること」が1位であり、7点以上においては「心身が健康であること」が1位であった。

## 7. 秋田市の総合的な魅力発信について

### (1) 秋田市が好きか（問8①）

【「好き」「どちらかといえば好き」の割合】

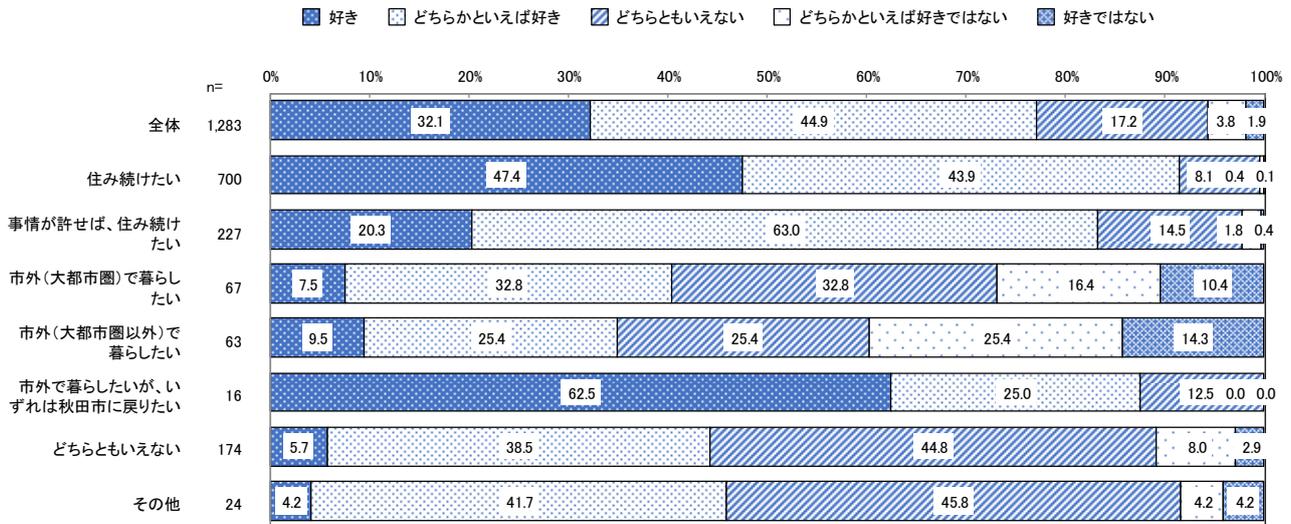
	「好き」 「どちらかといえば好き」 の割合	【参考：前回調査】 秋田市への愛着を 「感じている」 「やや感じている」の割合
全 体	77.0%	77.4%
年 代	10代	72.5%
	20代	80.4%
	30代	77.1%
	40代	72.9%
	50代	73.9%
	60代	75.9%
	70代以上	81.5%
出 身 地	秋田市内	79.3%
	秋田市以外の秋田県内	77.0%
	秋田県外	66.2%

全体で見ると 77.0%と8割弱を占めている。年代別では 70 代以上が 81.5%と最も高く、次いで 20 代が 80.4%、30 代が 77.1%であった。その他の年代においても7割以上と高い水準であるが、10 代、40 代、50 代においては7割台前半と相対的に低い。

出身地別では「秋田市内」および「秋田市以外の秋田県内」が8割弱と高いが、「秋田県外」は 66.2%となっており、出身地による差が生じている。

【秋田市が好きか（居留意向別）】

※「秋田市が好きか（問 8 ①）」と「今後も秋田市に住み続けたいと思うか(問 5 ②)」のクロス集計



居留意向別に「好き」と「どちらかといえば好き」の合計をみると、「住み続けたい」という居留意向の高い人においては91.3%と最も高く、非常に高い割合を占めている。次いで、「市外で暮らしたいが、いずれは秋田市に戻りたい」と答えた人においては87.5%、「事情が許せば、住み続けたい」と答えた人においては83.3%と続き、いずれも8割以上の高水準であった。

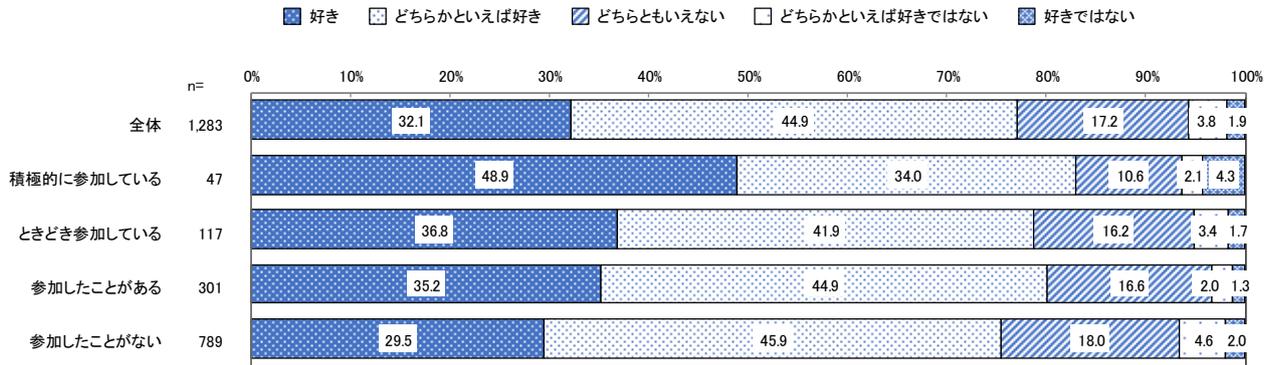
一方で、「市外（大都市圏）で暮らしたい」と答えた人においては40.3%、「市外（大都市圏以外）で暮らしたい」と答えた人においては34.9%となり、市外での居留意向が強い人においては、相対的に「好き」と「どちらかといえば好き」の合計は低い。

これらのことから、秋田市が好きかの度合いは、居留意向の区別と密接に関係している可能性が高い。

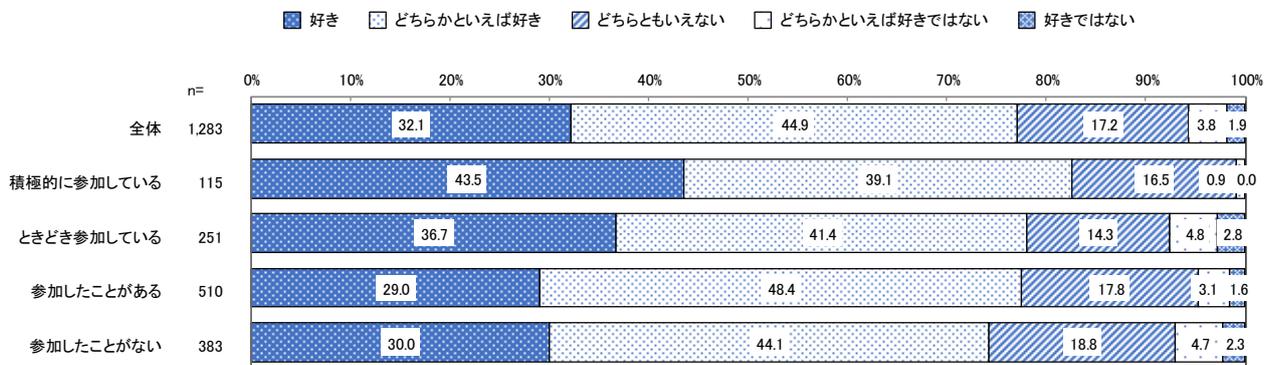
【秋田市が好きか（市民・地域活動の参加状況別）】

※「秋田市が好きか（問 8 ①）」と「市民・地域活動に参加しているか(問 6 ②)」のクロス集計

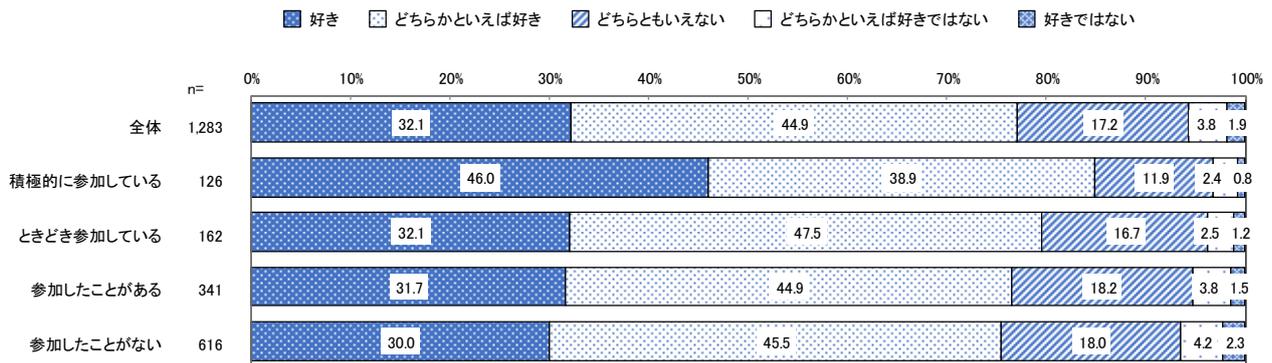
● N P O・ボランティアなどの市民活動



● 地縁的な活動



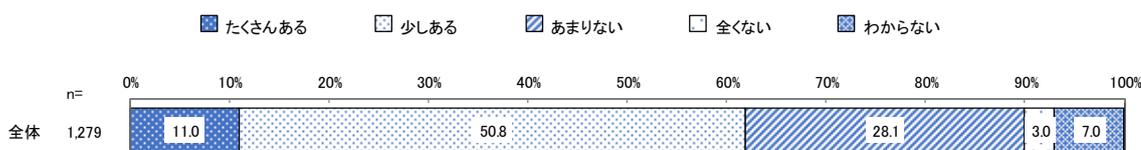
● スポーツ・趣味・娯楽活動



「N P O・ボランティアなどの市民活動」、「地縁的な活動」ならびに「スポーツ・趣味・娯楽活動」のいずれにおいても、「好き」「どちらかといえば好き」の合計は「積極的に参加している」と答えた人でもっとも高い。反対に「参加したことがない」と答えた人においては、「好き」「どちらかといえば好き」の合計はもっとも低い。このことから、秋田市が好きかの度合いと、地域での活動への積極性は密接に関係している可能性が高い。

## (2) おすすめ・自慢したい秋田市の魅力等の有無 (問 8 ②)

【秋田市の魅力等の有無 (全体)】

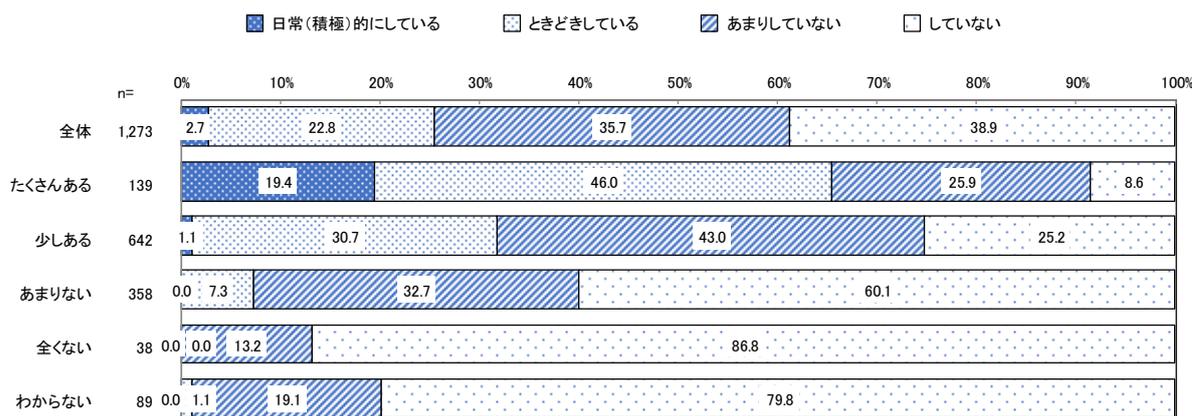


秋田市の魅力や良いところについては、「少しある」の割合が 50.8% (53.3%) でもっとも高く、これに「たくさんある」の 11.0% (11.2%) を合わせた割合は 61.8% (64.5%) と 6 割程度であった。一方で、「あまりない」が 28.1% (25.9%)、「全くない」が 3.0% (3.4%) と、これらを合わせた割合は 31.1% (29.3%) と 3 割程度であった。秋田市に魅力があると考えている人が多数であるものの、一定数の人が秋田市の魅力等がないと感じている状況がうかがえる。

## (3) 市外の人への魅力発信の状況 (問 8 ③)

【市外の人への魅力発信の状況 (魅力等の有無別)】

※「市外の人への魅力発信の状況 (問 8 ③)」と「おすすめ・自慢したい秋田市の魅力等の有無(問 8 ②)」のクロス集計



魅力発信の状況を秋田市の魅力等の有無別でみると、「日常(積極)的にしている」「とどきしている」の合計は、魅力等が「たくさんある」と答えた人においては 65.4% (65.1%) ともっとも高い。特に「日常(積極)的にしている」の割合が 19.4% (13.8%) と相対的に高い。一方で、魅力等が「あまりない」と答えた人においては 7.3% (11.1%)、魅力等が「全くない」と答えた人においては 0.0% (4.0%) と、秋田市の魅力等が多くあると認識している人ほど魅力発信の積極性が高いことがうかがえる。

(4) 秋田市の魅力等を市外の人におすすめ・発信するために必要なこと（問8④）

【「秋田市の魅力等を市外の人におすすめ・発信するために必要なこと」上位5項目】

順位 (今回)	順位 (前回)	項目	割合
1	2	秋田市の魅力や良いところをたくさん知っている	52.5% (+ 3.1ポイント)
2	1	秋田市ならではのブランド(モノ・コト等)がたくさんある	50.8% (- 1.2ポイント)
3	3	秋田市に関する新しい情報や発見を得られる媒体がたくさんある	39.8% (+ 4.1ポイント)
4	4	秋田市をおすすめ・発信する際に使用できる冊子やウェブサイトなどがある	33.0% (+ 0.5ポイント)
5	5	おすすめ・発信できる手段や機会がたくさんある	25.6% (- 2.3ポイント)

秋田市の魅力や良いところを市外の人におすすめ・発信するために必要だと思うことについては、「秋田市の魅力や良いところをたくさん知っている」の割合が52.5%（49.4%）でもっとも高く、次いで「秋田市ならではのブランド（モノ・コト等）がたくさんある」が50.8%（52.0%）で続き、この2項目が5割以上で高い割合となっている。以下は、情報を得られる媒体や冊子・ウェブサイトといったツールが重要だという意見が続いた。

(5) 市外の人におすすめしたい、自慢したい秋田市の魅力等（問8⑤）

市外の人におすすめしたい、自慢したい秋田市の魅力等として自由記述形式で回答いただいたところ、608人から1,138件の回答をいただいた。その内容の分類項目ごとの件数はⅡ調査結果の8（5）（P93）に示したとおりである。ここでは特徴的な意見を抜粋し、掲載する。

なお、1人の回答者が複数項目に該当する魅力等を記述するケースがあったため、ここでの分類は、代表的と思われる内容に基づき分類した。

分類	自由記述内容
食 (含む安全) ・酒	自然食品が豊富で、米、日本酒が美味しいこと。
	美味しい郷土の料理や酒が充実している繁華街があること。
	食材の魅力、本当においしい物が沢山ある。季節・季節に盆、正月に色々県外の人に送っている。皆さん、心より喜んでくださってるのを感じて、また送りたいと思っている。(米、山菜、鮎、フルーツ その他色々)
	お水やお米がおいしいので、日本酒やあられやせんべいなどもおいしい。海がキレイで緑もそこそこある。
	春夏秋冬、海、山の自然の恵と豊富な食材。美味しいお米、美味しいお酒。
	自然が豊かで、食べ物や飲み物が安全で美味しい。
自然・ 観光地・ 公園	セリオンから見る、日本海及び太平山等の山々と秋田市街地・クルーズ船、入港時の歓迎式
	千秋公園周辺の景色、街並み。竿燈祭り・大森山動物園・セリオンにある自動販売機のそば、うどん
	秋田市は千秋公園や大森山動物園又、春は桜が有り大変見る所があります。他県より良い所があります。
	まずは、空が広いこと、緑がきれいなこと、秋田犬も秋田米も、お酒も、そしてナマハゲ、秋田美人、有名で皆知っているが、何より身近で、手の届く所に有る自然秋田の四季がスゴイ！！と思う。
	市中心地に、文化施設、公園があり、散歩しながらゆっくり過ごせる。市民が穏やかで、スーパーでも、子育て中の若い人に声かけし、笑顔が日常的に見られる。遠くまで出かけなくても、身近に自然が残っている。
	自然が近くにあり、食も豊かであること。自然災害を除けばある程度快適な日常生活を送ることができること。
	千秋公園の蓮は大変美しく素晴らしいので、ミルハスと共に、市外に発信出来ますが、もっと魅力のある公園になる余地があるのではと思考しています。
	明るく、美しく、街。おいしいものがたくさんある街。観光に適した街。こんなに整った街は全国にもないと思う。秋田市民がこの良さに気づいていないのでは？秋田市はもっと自信をもって全国にPRをすべき。そのための一番の近道として、秋田市の全町内をもっと掘りおこした戦略を作れないかな？

芸術・文化	<p>駅前に緑地（千秋公園）があること。この構造は世界的に珍しく、好評価を得やすい。音楽、芸術等が活発で、そのクラスタを形成しやすい状態にあること。秋田駅前のこの2つを活かす公共交通網を構築すれば、唯一無二の県都ができる。ハコモノに求心力を期待している場合ではない。設備のアップデートに課金すべきだ。</p>
	<p>高齢者の100円バスの利用 ミルハス文化創造館（これからも催しが続いてくれれば良いが）美酒、美人の多い秋田市 国際教養大学 美短大の教育施設</p>
	<p>竿燈祭りを自慢したいが、その前後の観光場所等が無い。年々なかいち近辺でのイベントが充実していて良いと思う。ミルハスがすばらしい！！今まで来なかった歌手等のコンサートが多く見られてとても良い！</p>
	<p>観劇が好きなので、「ミルハス」名前も良いし、ロゴマークも良いと思います。木の温たかみのある建物も良いと思うのでたくさん催し物を開催して頂きたいです。</p>
	<p>広小路を中心に芸術・文化を堪能できる施設が集中してある。 秋田駅から歩いて秋田市を十分楽しめる。</p>
	<p>文化、芸術、教養の街としての将来性を発信したい。市内のいたるところに公衆のサウナ場が点在しており、花粉・鳥獣被害を克服、ジビエ料理を新たな名物とし、若者の農業進出をサポート、自然と最大限融合した類を見ない健康都市を思い描いています。</p>
祭り・イベント・歴史	<p>「竿燈まつりの創大さ」一度は見物することを勧めています。</p>
	<p>そこそこ都会でそこそこ田舎 美味しいお水とお米を食べられる飲食店がたくさん 竿燈まつりの夏のにぎわいが楽しめる 日本海に沈む夕日の美しさ きれいな雪化粧の太平山 あげるとたくさん魅力はありますが、どの季節に来ても楽しめる所です。</p>
	<p>駅前でイベントを行っていること。市外に比べて電車・バス等の時刻（本数）が多いこと。大型店舗があること。</p>
	<p>竿燈まつり、ミルハスでのイベント、多彩・食と芸能、日本酒会など季節にちなんだイベント、大森山動物園、オシャレなカフェ、飲食店がある。御所野イオンでも芸能人や子ども向けショーの開催が多々ある。ハピネッツ、ブラウブリッツ</p>
	<p>赤れんが郷土館といった歴史に関係する施設が現存している。サービスセンターや駅周辺のビルで高齢者や子ども向けのイベント、施設が開かれている。子育て支援金など給付金制度が充実している・セリオンのような目玉となる施設が豊富。</p>
	<p>歴史的建造物（赤レンガ館など） ねぶり流し館（竿燈まつりPR、観光客の誘致など）</p>
	<p>竿燈まつりや梵天祭等の行事や、秋田城および千秋公園（久保田城）等、歴史的史跡が他にも数多く存在し、非常に貴重なものである。もっと対外的にその良さを広めてほしい。</p>

街並み・建物・施設	駅近くに千秋公園、美術館、ミルハス、お堀の橋等があって芸術鑑賞、ステキな景色をみながらお散歩できるリフレッシュの場がある。日本海に沈むキレイな夕日
	町並が清潔できれい。
	繁華街、駅周辺に飲食店が多く、秋田ならではのお店が多い。自然と人工建物のバランスが良く、景観に配慮した街並みである。春夏秋冬自然が豊か。千秋公園は四季で見映えが全く違い、風情がある。秋田市を盛りあげようとする取りくみがたくさん見られる。竿燈、地方のニュース番組、ブラウブリッツ、ノーザンハピネットなどなど。
	夏は、お堀のハスの花、ミルハス界隈。春は、千秋公園の桜、つつじの頃。年間通じて、県立美術館のカフェ。カフェからの眺め。
	街と自然のバランス。
	街中がゆったりとしていて過ごしやすい。千秋公園のお堀が素敵で、蓮子が綺麗。
	自然に恵まれている点。高層の建物が少なく見晴らしが良い。星空が見え、月がきれい。まだまだ改善の余地があるのも良い。
人とのつながり	マイペースで生きられる上に仲間同士で助け合える。
	ライオンズクラブで30年間ボランティアを続けています。
	子そだてのしやすい町である。住みやすい環境の町である。土崎港町は北前船の寄港地で先進的な情報があり、人情があり、人柄が穏やかな町である。
	市に限らず秋田人は県民性がとても良いと思う。私の身近な方々は、皆優しく、社交的です。秋田に移り住んで約半世紀になる事が物語っているかと思います。
	秋田市民が良識ある行動（周りに配慮した行い）のできる方が多いこと。
治安の良さ	治安が良い。静かである。散歩できるところがたくさんある。
	治安も悪くなく、人も少ないので落ち着いた、のんびり、ゆったりした街。竿燈や、港まつりなど古くからのお祭りもたくさんある。
	人柄が良い。防犯・防災・事件・事故が少ない。生活環境～市の規模（30万人）がちょうど良い。
	犯罪が少なく安心して生活ができるところ
	平和なこと、災害が少ない、人柄が温厚、食べ物が美味しい、自然がいっぱい
災害	御所野は住宅への浸水の心配がほとんど無いこと。太平山からの眺望がすばらしいこと。ブナ林を歩くことが気持ち良いこと。…登山口までの道路復旧を望んでいます。
	比較的自然災害が少なく、安心して暮らせる時間が多い（今のところ）。他県・他市町村が、先に取組んで、やや結果を出している市政事業に、いつも追隨して秋田市は取組み始めるので、失敗が少ない都市である。
	昨年の水害には驚きましたが総合的に災害が少ないことです。

生活・住みやすさ	ゆったりと生活できる。(大雨には少し不安ですが) そばに温泉が数ヶ所ある。ミルハス等でのみよおしが適度にある。
	米がおいしい。適度に人がいる。(人が多すぎない) 都会すぎず、田舎すぎない。自然が多い。
	イベントや観光地へ行っても、ほどよい人の数がある。(多すぎず、少なすぎず)
	ちょうどいい田舎ぐあい。ちょうどいい都会ぐあい。
	ちょうど良い人との距離 コンパクトな街並み 自然のめぐみ
	のんびりしていて、飲食店やバスなど行列に並ばなくても大丈夫なところ
	ほどよくまとまっている。自慢できるほど突出してはいないが住みごちがいい。(冬以外は)
	一定レベル以上の生活インフラが整っており、教育水準もそれなりに高いが、それに比して地価はそれほど高くないところ
	都会でも田舎でもない、ちょうど良さを住んでいて感じられるところ
	全体的な住みやすさ、ほどよくのんびりできるところ、自然も身近にある。
大雪時の生活は苦勞しますが、生活しやすい環境と思います。日常が安全安心であることが一番です。	
コンパクトシティ(中心市街地)	千秋公園、ミルハス、にぎわい広場、アトリオン、アルヴェの市街地中心施設の探訪。竿燈、食の芸能大祭典の開催。秋田市民のやさしさ、親切な心。おいしい食べ物が豊富。
	コンパクトシティで何をするにも近いし、混み合っていないので、ゆっくり過せる。治安がよく、安心して過せる 美味しいものが沢山ある。
	コンパクトに街がまとまっていて、欲しいものもそこそこ手に入り、自然と街の関係が丁度いい。
	コンパクト市 スーパー、病院、学校など30分圏内でまわれるよさ
	駅前周辺のにぎわい。最近はお堀の蓮を見るための遊歩道。災害に比較的強い。
	災害が少なかったことがオススメポイントだったが雨災害の心配がでてきた。秋田市は人とぶつからないくらいの賑わいと秋田中心部の景観の改善、駅や空港が近い。無料で見られる観光施設があり、美味しいもの、名物、お酒があるところ。
	市街地の真ん中に千秋公園があり、さほど大きくない市街地と調和し、ゆったりとして、落ち着きがあり悠々としています。一步海に出ますと雄物川が日本海に注ぎ、河口からは、北には男鹿半島、東には太平山、南には烏海山が眺望できます。なんと美しい秋田市でしょう。
	第一に、かつて空洞化した秋田駅前が今はもう一度賑わいを取り戻していることを肌で感じているので、これは他の市町村にはない魅力だとお勧めしたい。また人口減少、少子高齢は他と変わらないが、とても住みやすい街づくりがされていて、市民サービスの提供も充実していると感じるので、ぜひアピールしたい。最後に、他の市町村も食べ歩いてみて、秋田市の美味しいものは他とは違う、特別な魅力がいくつかあるのでお知らせしたい。

買い物・飲食店	お店がたくさんあって便利。病院も近く安心。
	秋田駅や西武とかに県外のおいしい食べ物とかの出張販売が来て買えること。秋田市で秋田県内のお菓子やおいしい食べ物を販売するイベントがあること。
	緑が多く自然環境の良さを感じる。スーパー、各種店舗が多いため、日常生活、特に買物等で不便さを感じる事がない。県内でも気候がおだやかなので暮らしやすい。
	おいしい食べ物屋さんがたくさんあること。
	外食できる、食堂、レストランが多く、とてもおいしいです。
	美味しい飲食店が沢山ある。新鮮な野菜等が買える直売所
娯楽・趣味	竿燈まつり。すぐ近くに海も山もある。気軽にアウトドアレジャーが楽しめる。一戸建てに住める。
	岩見三内地域の山採取、ユフォーレ等娯楽施設の活用、イオン等での買い物等
	車で 30 分でアウトドアを楽しめる場所がたくさんある。
	食べ物が美味しい。四季かはっきりとわかりやすいので、季節によって食べ物や観光、レジャーを楽しめる。人が良い。
	良い温泉がたくさんある。
交通	J R、航空機 バス フェリー等交通の便が良い。
	シニアアキカはとても良い！！行動範囲が広がる。ただバスの本数が少なくなっているのが残念高齢者が免許返納したくても出来ない現実もあると思う。
	交通の要衝であること。市内に港、空港、鉄道幹線の分岐駅を有している。ただし、バスについては、市交通局廃止後は中央交通に移管して減便、路線廃止で大変残念な状況である。
	通勤時間が短い。渋滞が少ない。
	田舎とも都会とも言えないちょうど良さが住みやすい。例えば公共交通機関が混雑してなく、過疎が過度に進んでいるとも言えないところ。
スポーツ	ごはんが美味しい。四季がある。自然が豊か。スポーツで市民が盛り上がっている。様々な行事がある。（竿燈など）人が優しい。
	公立の美術大学がある。プロスポーツチームがある。ごはんがおいしい。お酒がおいしい。
	豊かな自然環境 Jリーグ、Bリーグのチームが存在する。
	芸術文化ゾーン、大きなスポーツ施設があること、竿燈祭りがあること
	秋田ノーザンハピネッツ バスケやスポーツをみんなができるような環境 リフレッシュできる環境が必要。廃校の学校とか有効活用できないのかな？

子育て・教育	教育環境が（小・中学校）充実している。学校教育の質が高い。
	子どもが育てやすい。竿燈の予測不可能なしなり、差し手の腰つき 永楽食堂
	子育てクーポンや子育て支援センター、保育料無償化等、子どもの年齢や各家庭状況に適した制度があり、徒歩の距離でいくら公園もあり、自然豊か人もあたたかく安心して子育てができるところ。雨や雪、真夏日でもたくさんの人があそんだり憩いの場として使用したりできる大きな無償の施設があればさらによいと思う。
	マルフクなど子育てに関して充実している方だと思う。
	国際教養大学があること。
	子どもの遊ぶところがある。ごはんがおいしい。治安がいい。
行政サービス等	千秋公園が維持・管理されている。官公庁の窓口対応が良い。自治体の活動は、大胆な発想はないが真面目にとりこんでいる。
	ゴミ処理場の能力の高さ(もっと頻繁に発信すべき) 外食産業のレベルの高さ(高級店ではなく一般の外食店の評価の高い店が多い)
	秋田市のごみ処理の良いところ
	秋田市広報、青ポ、aK u r a s u、ママファミなど情報を得られる情報冊子が充実している。動ける時と動けない時（多忙のため）があり、ウェブだけでなく、紙面で情報を得られる所が、行動する面で手助けとなる感じがする。
	住環境（上・下水道、緑化、除雪 河川改修等）の整備が着実に進められていること。
医療・介護	医療機関が充実していること 大病院や各医院が近くにあるので安心なところ
	市外に比べれば、医療、福祉施設や、スーパーが多いところ。
	商業施設や医療にほどほどにアクセスが良く、自然環境もとのえられているところ。中心部に限れば（町内会などの）コミュニティもゆるく、暮らしやすいと思う。県外の友人は日本酒と竿燈が大好きなため、将来的には秋田市に移住したいと言っていたので、伝統的なコンテンツを維持し、さらに魅力を広く伝えることは重要だと感じる。
	病院が沢山あり、安心して医療・福祉が受けられる。海も山もあり、遊びやすい。
産業・雇用	市外よりは求人が多い、アキカの導入。

要望・課題	<p>真冬に田のあぜ道に車を脱輪させ、一人で脱出しようと30分かけていた。道路の向かいで吹風の中、ずっと見ている男の人がいた。何故手伝ってくれないのか、不思議にしていた。たまたま声をかけたら、家からスコップ、除雪車、をもって来て一生懸命手伝ってくれ、すぐ脱出できた。これぞ秋田人の性質を見た。(ありがたかった。)</p> <p>自然豊かな魅力を知ってもらう為の人材育成が急務。昔より(S. 56年)は大部分良くなったが、まだ、サービス業への徹底が足りていない。新しいことや人をまだ受け入れない性質(県民性)を研修、教育で直す。</p> <p>秋田は田舎ではないとの意識を持ってほしい。</p>
	<p>お堀周辺の景観が好き。食べ物が美味しいところも好き。自分自身は秋田が大好きで公私ともにPRするようにしているが、市として(県としても)観光地化できていない部分が大きいように感じる。秋田に遊びに来てくれる県外の友人がいても、ピンポイントで説明しやすい具体的なスポットが少ない。全体的に見るととても魅力的な県なのに、もどかしい。名物や名所をもっとわかりやすく、看板設置、誘導による観光地化なども重要だと思う。秋田名物をワンハンドフードカーなどでも、もっと手軽に食べてもらえないか?酒蔵めぐりのマップなども手に取れるといい。</p>
	<p>街中に、千秋公園があること ミルハスが出来たこと ただ駐車場が少なく不便。</p>
	<p>観光の規模が小さくて、特化してお薦め出来るところがない。</p>
	<p>山形県酒田市生まれ、父の転勤で小さい頃秋田に来て、新潟の主人の実家に何年かお世話になりまた秋田に帰って来て30年以上になります。秋田にはいいところもたくさんありますが、まずは駅前の商業施設のにぎわいと、若者の遊べる所、雇用の場をふやして欲しい。いろいろ頑張っているのは広報あきたを見てよく解り、頑張っていると思います。年寄りの意見で役に立てたでしょうか。</p>
	<p>自然はすばらしいはずだが、それを生かしてきていないのがとても残念です!自慢というより、素敵な場所があるのに閑散としている、店や人も少ない…。もっと呼びこめるような建物・紹介の仕方、楽しく過ごせるみんなが(お年寄から子供まで)行きたいと思える地域づくりをするべき、と言いたいです。</p>
	<p>秋田駅前の整備が良くなってきているので尚一層がんばってほしい。</p>
	<p>良いところはたくさんあると思うが、雇用対策、賃金が安いなどの問題の方が大きいので、おすすめしたくとも、住んでくださいとは、とてもじゃないと言えない。</p>
その他	<p>まず、秋田市にはよそに自慢できるものはない。魅力もない。だけど私は秋田が好きです。つまり、秋田にはなんにもないところが、他の所にはない魅力だと思う。何も無いことをたのしめる人には住むのにむいていると思う。よその地域に秋田のことを発信する必要はない。ありもしない魅力の発信にお金をかけるより、今秋田に住んでいる人にお金をつかってほしい。</p>
	<p>姉妹都市などの意識した創生</p>
	<p>秋田の中心なところ</p>